京都 平安京の天門

天満宮

題字／後西天皇御宸筆

謹賀新年

雪月花の三庭苑
「花の庭」再興

特集

◆彬子女王殿下御来駕 心游舎「新穀米御奉幣奉告式」斎行

◆天正の「北野大茶湯」の縁 献茶祭厳かに斎行

◆天神さまと私 特別鼎談

大阪大学名誉教授 加地伸行さん

公益社団法人温故学会 代表理事 齊藤幸一さん

北野天満宮社報 新年号 Vol.30
KITANO TENMANGU NEWS

日本文化の中心地 京都
その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

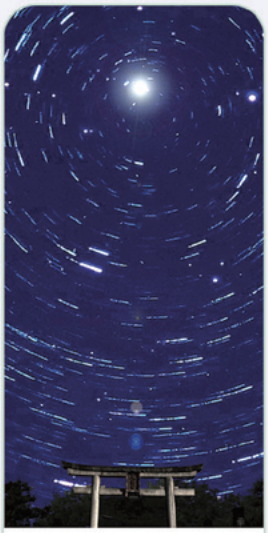
創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに将軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあって、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造（やつむねづくり）と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与え続けています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



京都 平安京の天門

【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地です。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚していきました。

表紙写真　―「雪月花の三庭苑」北野天満宮 梅苑「花の庭」再興 ―

本年より当宮梅苑を、江戸時代、貞門俳諧の祖と仰がれた松永貞徳作庭の「雪月花の三庭苑」のひとつ、北野「花の庭」として再興する。令和九年斎行の菅公千百二十五年半萬燈祭に向けて、清水寺の「月の庭」、妙満寺の「雪の庭」とともに、「雪月花の三庭苑」として新たな北野の魅力を発信する。

新年の御祝辞

楼門に奉掲された干支大絵馬（日本画家 堂本印象作品鑑定士 三輪純子画伯作画）

謹賀新年

年頭にあたり、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を言祝ぎ奉り、国家の隆昌と氏子崇敬者皆様方のご健勝とご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。

寛仁親王殿下第一女子彬子女王殿下には、昨年十二月十日御成りになり、御神前に心游米を奉献されるにあたり、奉告式を御斎行申し上げました。多くの方々の手により丹精込めてお作りいただきました新穀は、見事なまでに美しく、神々しさをも感じさせるものでありました。改めて御奉納賜りましたこと、厚く御礼申し上げる次第でございます。

旧臘、恒例の献茶祭は、武者小路千家官休庵家元千宗守宗匠の御奉仕により斎行いたしました。例年の各茶席と協賛席は世情に鑑み、昨年同様に自粛となりましたが、豊太閤と利休居士由縁の大茶湯の伝統を継承する祭祀を厳粛に斎行出来ましたこと、心より感謝申し上げます。

扨、御神縁により、一昨年前より天台宗総本山比叡山延暦寺や真言宗御室派総本山仁和寺、旧嵯峨御所大本山大覚寺の方々と旧儀の復興や神事を共に斎行いたしております。いずれも遡ること千有余年、菅公御生前からの御縁に始まり、平安京の天門の守護神として当宮が創建されることにより、さらに深い関わりをいただく寺院であります。わけても、当宮にとって平安京の鬼門を守護する比叡山延暦寺は、御霊信仰に端を発する北野御霊会に見る「怨霊」を司り、宇多天皇が建立された仁和寺は、宇多天皇と菅公がおよそ二十年で築き上げられた日本文化の礎に見る「文化」を司る寺院で、両寺とも天神信仰の原点の一助を現在も担う重要寺院であります。本年も引き続き、三社寺の歴史を重んじた神事斎行に努めて参りたいと思っております。

菅公は、その類稀なる才を以て宇多天皇のもとで平安時代の基盤を創られ、日本文化の礎を構築されました。爾来、千二百年にわたる我国の文化には、天神信仰が脈々と流れ、人々の心に生き続けております。こうした想いのもと、令和九年の菅公千百二十五年半萬燈祭に向けて今一度、天神信仰の原点を見つめ直し、先人たちが菅公精神をどのように伝え受け継いできたのか、その歴史を学び、未来に繋げていくため、現在当宮では遺された古文書や御社殿等の歴史文化財の再調査も進めております。天神信仰千二百年に秘められた歴史や先人たちが紡いできた旧儀を再興し、来たる大祭に向けて更なる御神徳宣揚に努めて参る所存でございます。

境内の梅も一輪一輪と花を咲かせ始めました。半萬燈祭に向けた記念事業として、当宮崇敬会北野天満宮講社千玄室会長をはじめとする講社会員皆様のお力添えを賜り進めて参りました梅苑改修も漸く整い、今春より、松永貞徳作庭「雪月花の三庭苑」のひとつ北野「花の庭」として再興し公開させていただく運びとなりました。御神縁深き氏子崇敬者皆々様の御来苑を心よりお待ち申し上げると共に、本年も倍旧のご高配の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

令和四年 壬寅 元旦

北野天満宮
宮司 橘 重十九

彬子女王殿下御来駕

主宰の心游舎活動 國學院大學学生らと新潟でお育てになられた心游米ご奉納

彬子女王殿下 御神前に「心游米」を奉献

寛仁親王殿下第一女子彬子女王殿下には、十二月十日当宮に御成りになり、御本殿に「心游米」をご奉献された。

これは殿下が総裁を務められている心游舎（一般社団法人）の活動の一環として、國學院大學（東京都渋谷区）の学生たちと新潟市内で育てられた新穀米をご奉納される事業であり、彬子女王殿下御来駕のもと、心游舎理事、國學院大學代表者ならびに新潟の米生産者らで組織された新潟実行委員会会員ら総勢十六名が参列し、御本殿にて新穀米御奉幣奉告式を斎行した。

神職により御神前に心游米が献饌され、彬子女王殿下が大前にて御一礼、続いて参列者を代表し心游舎小山良磨代表理事が玉串拝礼し、参列者とともに祈りを捧げた。

奉告式の後、文道会館にて直会の儀が執り行われ、彬子女王殿下は「今年も無事にお米を奉納することが出来て大変喜ばしく思います」とお言葉を述べられた。直会では今年の心游米で作られた「おむすび弁当」を参列者らとともにお召し上がりになり、新潟の米生産者の皆さんと親しくお言葉を交わされた。

新潟での米栽培のワークショップは、國學院大學の学生、現地の農家の人たちでつくる新潟実行委員会によって五年前から行なわれており、彬子女王

米俵に収められ御神前に供えられた心游米

参進

直会にてお言葉を述べられる彬子女王殿下

参列者を代表し、心游舎 小山良磨代表理事による玉串拝礼

殿下もコロナ禍前は学生らとともに田植えや草抜き、刈り取りなどに汗を流されている。収穫した米は、平成二十八年度の彌彦神社（新潟）を皮切りに、白山神社（新潟）、春日大社（奈良）、熱田神宮（名古屋）、出雲大社（島根）と毎年全国の神社に奉納されておられ、今年は当宮へのご奉納となった。

心游舎は、「日本の伝統文化が生き続けることが出来る土壌をつくりたい」という彬子女王殿下の思いに共鳴した有志によって平成二十四年に設立された団体。「子どもたちにも本物の日本文化を提供したい」の願いも強く、子どもたちが日本文化を体験するワークショップを主催され、様々な活動が行われている。

当宮では「御花神饌」奉献や歌舞伎のワークショップも開催

彬子女王殿下は当宮に平成二十四年十二月、心游舎のワークショップとして初めて御来駕になり、御本殿に御参拝のあと、社務所で行われた「深谷式辞書引き学習」を受ける子どもたちの様子をご覧になった。翌平成二十五年四月、平成二十六年二月の御来駕では、子どもたちが和紙で作ったお花の特殊神饌として「御花神饌」を御本殿に奉献された。とくに平成二十六年の際は、社務所大広間に展示中の後深草天皇や後奈良天皇宸翰の御神号など、当宮に伝わる皇室ゆかりの宝物類もご覧になった。さらには水墨画や中村勘九郎・中村七之助両丈による歌舞伎ワークショップ（平成三十年・紅梅殿）も催されるなど、当宮と深い御縁をいただいている。

水墨画ワークショップにて子供たちと親しく話される彬子女王殿下（平成27年3月）

ご献上の心游米で作られた「おむすび弁当」

天正の「北野大茶湯（きたのおおちゃのゆ）」の縁　献茶祭厳かに斎行

――武者小路千家千宗守家元ご奉仕――

お点前される武者小路千家官休庵家元 千 宗守宗匠

当宮とは深い縁のある豊臣秀吉公が、約四百三十年前の天正年間に当宮境内で催した空前絶後の大茶会「北野大茶湯（きたのおおちゃのゆ）」を縁とする献茶祭が、本年も十二月一日午前十時半から御本殿で武者小路千家官休庵家元千宗守宗匠のご奉仕により厳かに斎行された。

豊太閤の「北野大茶湯」は、天正十五年（一五八七）十月、秀吉公が「茶好きのものは町人、百姓、唐人によらず参加せよ」と呼びかけて開かれた大茶会で、千利休・津田宗及・今井宗久らが秀吉公とともに亭主を務めた。当宮御本殿内の拝殿には、かの有名な組み立て式の黄金茶室に、関白御自慢の名だたる茶器の数々が並べられ人々を魅了した。境内である北野の杜には八百とも千六百とも云われる茶席が立ち並び、その光景はまさに現代の万博あるいはフェスとでも云うべき前代未聞の大規模な茶会であった。

境内には、豊太閤自らが水を汲んだと伝わる「太閤井戸」があり、茶室松向軒には細川三斎公が使った「三斎井戸」上七軒の西方尼寺には千利休居士が用いた「利休井戸」があるなど、北野境内周辺には現在も大茶湯の縁の箇所が数々遺る。そして明月舎や松向軒の茶室では現在も月釜が掛けられ、茶文化が脈々と息づいている。

例年十二月一日の献茶祭もこうした天正年間より受け継がれる北野とお茶の深縁による当宮ならではの神事で、献茶祭保存会の並々ならぬご助力により毎年斎行されて

豊国神社 玉串拝礼

祝詞奏上

参列される献茶祭保存会役員方々
右から、長谷幹雄、渡辺孝史、山本源兵衛、鈴鹿且久、乾 八郎兵衛、畑 正高、ならびに同席された渡辺正一各氏

いる。

御神前における献茶の儀は、在洛の四家元二宗匠（藪内家・表千家・裏千家・武者小路千家・堀内家・久田家）が六年ごとに輪番で務められるのが習わしで、本年は武者小路千家家元のご奉仕となった。

武者小路千家家元 御祭神に献上の二碗を厳かにお点前

御本殿で行われた献茶の儀は、献茶祭保存会の役員をはじめ、武者小路千家官休庵御社中方々合わせて約七十人の参列のもと、千宗守家元が御祭神に献上する濃茶薄茶二碗を厳かに点てられた。

この日使われた茶道具は、明治十四年（一八八一）、武者小路千家が初めて当宮献茶祭に奉仕された際に用いられたものという。

御神前に献茶が奉られた後、宮司が祝詞を奏上。次に宮司、千宗守家元、保存会代表の長谷幹雄氏らが玉串を捧げ、献茶祭本殿祭を執り納めた。

引き続き、神職ならびに家元らは秀吉公を祀る末社豊国神社へ参進し、豊国神社献茶祭を斎行した。

この日は小春日和の好天で、もみじ狩りを楽しむ観光客や旅行者の姿が見られ、境内を行き来する正装の参列者を多くの参拝者が見守っていた。

コロナ禍は一時期に比べて落ち着いた状況にあるとはいえ、未だ参拝者が密集する境内での各茶席は感染拡大の危険が伴うため、全て取り止めとなり、社務所大広間において宮司、献茶祭保存会役員、関係者のみによる直会と拝服席が催された。

直会・拝服席

豊国神社 献茶祭

口切式にて木幡の茶壺を口切する長谷幹雄役員

碾茶の見知をされる渡辺孝史宰領

御茶壺奉献奉告祭・口切式を斎行
御茶壺道中は中止、口切は一ノ茶壺のみ

献茶祭に先立ち、祭典で使用される抹茶の原料の碾茶（てんちゃ）を奉献する御茶壺奉献奉告祭と口切式を十一月二十六日午前十一時から御本殿で斎行した。

碾茶は毎年山城六郷（木幡・宇治・菟道・伏見桃山・小倉・八幡・京都・山城）の茶の生産者や茶業関係者によって茶壺に詰められ、茶摘み娘の先導で一の鳥居から御本殿まで御茶壺道中によって奉献されるのが習わしとなっているが、コロナ禍による感染拡大を防ぐため、昨年に引き続き本年も御茶壺道中は中止となった。

各産地より奉納された御茶は祭典前にあらかじめ御本殿石の間に供えられ、祭典では産地を代表して、一ノ茶壺に詰められた木幡の茶壺を御神前に献上した。

御茶壺奉献奉告祭は宮司祝詞奏上の後、宮司、宰領の渡辺孝史氏、保存会代表の本年当番役員である長谷幹雄氏、今年の献茶祭当番となる武者小路千家家元の名代として木津宗栓氏が順に玉串を捧げた。

祭典後、茶壺の口切式が行われ、保存会役員を代表して長谷幹雄氏が一ノ茶壺である木幡の茶壺を口切し、茶舟の上に青々とした碾茶を盛り上げた。この碾茶を渡辺宰領が丁寧に見知し、口切式を無事終えた。

お供えされた各産地の碾茶はその後、抹茶にされて一日の献茶祭に供えられた。

御茶壺奉献奉告祭から献茶祭へと続くこの一連のお茶神事は全国でも類を見ない北野ならではの茶文化として現在にまで伝えられている。

祝詞奏上

京都の各産地から献上された御茶

雅やかに文化の日

御本殿で講社大祭斎行
船出の庭では「曲水の宴」開宴

講員名簿を御神前に供え天神信仰の更なる隆盛を祈願

秋空のもと講社大祭ならびに曲水の宴斎行

北野天満宮講社（会長 裏千家千玄室大宗匠）の令和三年度講社大祭を文化の日の十一月三日午後一時半から御本殿で斎行した。

今年もコロナ禍の情勢に鑑み、昨年同様、中庭に参列者用の特設席を設けず、御本殿参列者は天満宮講社の理事だけに限定し、少数での祭典執行となった。

全国約三千五百人の講員名簿が供えられた御神前で宮司が祝詞を奏上し、千会長御名代の裏千家村上利行執事が玉串拝礼、天神信仰の更なる隆盛と会員の無病息災・家内安全を祈願した。

この後、講社大祭参列者は、紅梅殿船出の庭における曲水の宴の会場に移動した。

開宴に先立ち裏千家村上執事が、千会長に代わり殿上から「いよいよ令和九年の式年大祭、千百二十五年半萬燈祭まで来春で後五年となります。コロナ禍によって大変厳しい社会情勢にありますが、天神さまの御加護の下、ご崇敬篤い皆さま方とともに奉賛活動を進めて参りたいと存じますので引き続きご協力を賜りますようにお願いします」との会長の挨拶を伝えられた。

ご挨拶される裏千家村上利行氏

講社大祭　祝詞奏上

朗詠（藤村正則氏・京都雅楽会）

冷泉為人・冷泉貴実子・冷泉為弘各氏ほか神社役員、ご来賓の方々

千玄室会長名代として裏千家村上氏による玉串拝礼

童子（手前より 橘 重朗君・岸本業美君・東川真子さん）

詠者（浅井航洋氏・松原史氏）

詠者（西山剛氏・濱崎加奈子氏）

小春日和の「曲水の宴」

平安装束の詩人・歌人が自ら披講・解説 密を避け、観覧者は講社役員らに絞る

当宮独自の和漢朗詠による曲水の宴は、コロナ禍による密を避けるため今回も講社役員と出演詠者の家族ら関係者のみに限定した観覧となった。

曲水の宴は、庭に流れる小川に酒を入れた杯を流して飲み、あらかじめ出された兼題に即した詩を賦すという雅な宴で、中国から我が国に伝えられ、奈良・平安時代には宮中において盛んに行なわれた。

宇多天皇に重用された菅公は、帝が催された曲水の宴に幾度も招かれ、その際に創られた詩文も遺されているなどご縁が深い。こうした歴史から紅梅殿船出の庭の完成に伴い、平成二十八年十一月三日、千有余年ぶりに曲水の宴を再興した。それも和魂漢才の精神を示された菅公を顕彰し、漢詩と和歌による和漢朗詠という全国的にも稀な形式での再興として注目を集め、今回で通算十回目を数える。

白拍子の舞（白拍子研究所）

平安の雅を伝える宴は、立命館大学太田達教授の司会解説によって進められた。まず殿上で菅公作の漢詩『花時天似酔（はなのときはてんもよるがごとし）』が雅楽の音にのって朗々と詠じられ、伝統芸能の白拍子が舞を披露した。

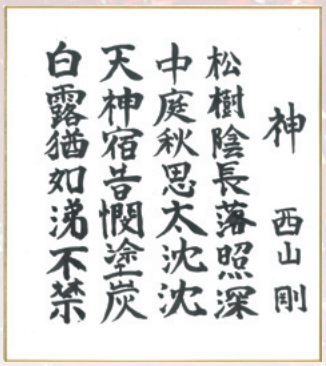
次に流觴（りゅうしょう）曲水に移り、平安装束をまとった詠者四人が男女二人ずつ一組となって流れに沿って着座した。漢詩を詠む詩人は西山剛・浅井航洋の両氏。和歌を詠む歌人は濱崎加奈子・松原史の両氏で、今回の兼題は「神」と「紅葉」。各人は流れてきた杯に口を当て、兼題に基づいての漢詩や和歌を筆でしたため、それぞれが自らの作品を披講し、解説を加えた。漢詩・和歌が書かれた色紙と短冊は神職によって御神前に供えられた。

コロナ禍とあって一般参拝者には公開されない「曲水の宴」となったが、青空の広がる小春日和の好天の下で繰り広げられた平安の雅の再現が観覧者を楽しませた。

曲水の宴で披露された漢詩と和歌

一番　神

詩人　西山　剛（京都文化博物館 学芸員）



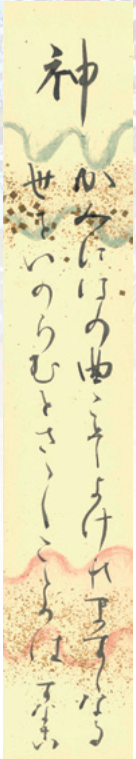
松樹陰長落照深
中庭秋思太沈沈
天神宿昔憫塗炭
白露猶如涕不禁

松樹（しょうじゅ）陰長（かげなが）くして落照深（らくしょうふか）く
中庭（ちゅうてい）秋思（しゅうし）　太（はなは）だ沈沈（ちんちん）
天神（てんじん）宿昔（しゅくせき）　塗炭（とたん）を憫（あわ）れめば
白露（はくろ）　猶（な）ほ涕禁（なみだた）へざるが如（ごと）し

松の木の影が長くなって夕陽がふかぶかと沈んでゆき、
ひっそりと静まった中庭で私は秋の物思いにふけっている。
ふとその昔、天神が人々のと共に苦しみを受けたことを
木々の葉に降りた露はまるでこらえきれずにこぼれた神の涙のようだ。

＊詩人が自身も北野の地で物思いにふけりつつ、室町時代には、天神が衆生の代わりにその苦しみを引き受ける存在であったことに思いを寄せて賦した詩。

歌人　濱崎加奈子（有斐斎弘道館 館長）

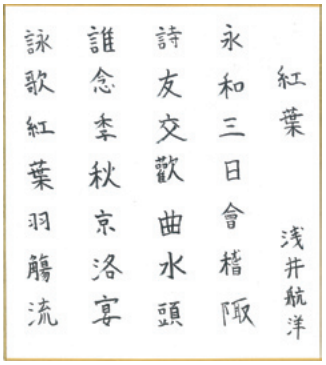


「かみにはの　曲こそよけれ　ますぐなる　世をいのらむと　ささぐことのは」　かなこ

＊曲水の宴を催すこの「神庭」の流れは曲がりくねっているのが素晴らしいが、世の中はどうぞまっすぐに進んでいきますようにとの歌人の祈りを込めた歌。

二番　紅葉

詩人　浅井　航洋（甲子園大学 助教）



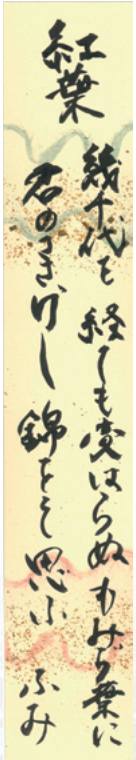
永和三日會稽陬
詩友交歡曲水頭
誰念季秋京洛宴
詠歌紅葉羽觴流

永和三日（えいわさんじつ）　会稽（かいけい）の陬（すみ）
詩友（しゅう）　歓（かん）を交（まじ）ふ　曲水（きょくすい）の頭（ほとり）
誰（たれ）か念（おも）はん季秋（きしゅう）　京洛（けいらく）の宴（えん）
紅葉（こうよう）を詠歌（えいか）して羽觴流（うしょうなが）れんとは

永和の年の三月三日、会稽郡の片すみにある蘭亭に、
詩を作る仲間たちが集まって曲水のほとりで歓を尽した。
当時誰が想像しただろう、今この京都で秋の終わりに宴が催され、
紅葉を詩歌に詠じて曲水に羽觴が流れているとは。

＊曲水の宴の時代考証を担当した詩人が、その歴史に思いを馳せつつ、通常春に行われた宴がここでは秋にも行われるのを知ったら、王義之たちも驚くだろうという思いを詠んだ詩。

歌人　松原　史（北野文化研究所 室長）



「幾千代を　経ても変はらぬ　もみぢ葉に　君のささげし　錦をぞ思ふ」　ふみ

＊菅公御歌「このたびは 幣もとりあへず 手向山 紅葉の錦　神のまにまに」をふまえ、北野の美しい紅葉を、菅公が捧げようといった紅葉の錦もこのようなものだったのだろうかとながめつつ、今度はその錦を菅公に捧げたいという歌人の思いを込めて詠んだ歌。

史跡御土居もみじ苑、錦秋の美あざやか

コロナ感染症落ち着く中、マスクしながら紅葉参拝者堪能

錦秋の彩りに包まれる境内

史跡御土居もみじ苑を十月三十日から十二月五日まで開苑した。新型コロナウイルス感染症の蔓延中だった前年と異なり、九月で京都府の緊急事態宣言も解除され、感染者大幅減の落ち着いた状態の中での開苑となったため、期間中は多くの参拝者が訪れ、御土居の〝錦秋の美〟を堪能した。

菅公御歌

「このたびは　幣もとりあへず手向山
紅葉の錦　神のまにまに」

小倉百人一首にも収録されるほどの名歌が遺る菅公は、梅だけでなく、もみじにも深い想いを寄せられている。

史跡御土居もみじ苑は、豊臣秀吉公によって築かれた天正の歴史的遺構である御土居の中に広がる自然美あふれるもみじ苑で、樹齢四百年の「三叉の紅葉」を始め、約三百五十本ものもみじがある。北野天満宮講社（会長裏千家千玄室大宗匠）の長年にわたる並々ならぬご助力によって整備され、京都の街中にある歴史に彩られたもみじの名所として京都のみならず全国の人に親しまれている。

もみじの色づきが今ひとつだった開苑当初から、紅葉狩りの参拝者は前年より大幅に増え、マスクをしながらも楽しそうに御土居を巡る姿が見られた。ライトアップが始まった十一月十三日ごろからは好天に恵まれたこともあり、一時は途絶えていたバスでの団体旅行客の姿も日を追うごとに増え、とくに土・日曜日を中心に入苑者で賑わった。

御土居舞台から観る紅葉

もみじの鮮やかな色づきを見せる御土居展望所

菅公御歌

このたびは
幣もとりあへず手向山
紅葉の錦
神のまにまに

もみじ苑展望所より境内全景を眺める

「このままコロナ退散を」「御土居のもみじの美に堪能した」と入苑者

ライトアップされた御土居の散策は好評で、展望所にたたずんでもみじの合間から望める国宝の御本殿を観たり、もみじの中に溶け込んだような朱塗りの鶯橋と紙屋川の清流などにスマートフォンを向けて撮影する人が相次いだ。

「昨年はコロナが恐ろしくつい出控えてしまいましたが、今年は、コロナも落ち着いてきたので我慢できずにきました。習慣になってしまったマスクも気にならないほど感動しました。このままコロナは退散してほしい」と娘さんを連れた北区の女性。また、初めて来たという名古屋からの観光客（男性）は「つくりものでないのがいい。歴史上有名なあの御土居でしょう。京都にこんなところがあることを知らなかっただけに、もみじの美しさが倍増、堪能しました」と満足そうに話した。

スマートフォンで咲かす”光の花“参加型アートプロジェクトに歓声

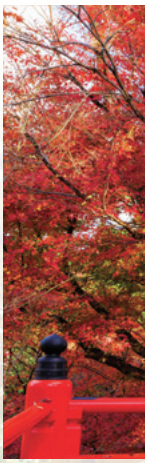
参加型アートの「ダンデライオンプロジェクト」が十一月十三、十四の両日夜、ライトアップされた御土居特設舞台で行われ、紅葉狩りの参拝者がスマートフォンで咲かす”光の花“に歓声を上げた。

この催しは、アーティスト村松亮太郎によるDANDELION PROJECTで、ダンデライオン（タンポポ）の綿毛を飛ばし、世界平和の願いを込めた美しい花を各地で咲かせようというもの。

用意されたQRコードにスマートフォンをかざして読み取り、自分の名前を打ち込み、設置されたタンポポの花のQRコードに当てると、舞台上にカラフルな花が咲き乱れ、自分や他人の名前が次々映し出された。中には外国の方らしい名前もあり、「あなたが飛ばした綿毛が、企画に参画した世界各地で花を咲かせています。外国にも飛び、逆に飛んできています」との担当者の説明に、紅葉狩りの参拝者が次々足を止めて挑戦していた。

御土居の舞台を彩る光のアート「ダンデライオン」

鶯橋と御土居のもみじ



《史跡御土居のもみじ苑所縁の行事》

ライトアップ初日 上七軒の舞妓さん三人 日本舞踊、あでやかに奉納

ライトアップ初日の十一月十三日夕刻、御土居内の特設舞台で上七軒の舞妓三人による日本舞踊の奉納が行われた。

ライトアップ開始を告げる恒例行事で、もみじがライトに映える中、「重ね扇」「京の四季」「もみじの橋」の三曲をあでやかに舞う舞妓に参拝者から感嘆の声が上がっていた。

もみじはまだ五分程度の色づきだったが、あまり冷え込みが感じられない暖かさで、コロナの感染状況も一息ついているとあってマスクをつけながら紅葉狩りを楽しむ参拝者でにぎわった。

上七軒歌舞会 日本舞踊奉納

北野天神もみじ寄席 初開催の文道会館、爆笑の渦

江戸時代、上方落語の祖と仰がれた露の五郎兵衛は文化芸能の神である天神様への信仰厚く、北野において落語興行を盛んに行った。

初代露の五郎兵衛よりの続く御神縁により、当宮では毎秋、落語家露の五郎兵衛一門会による「北野天神もみじ寄席」を開催しており、昨年はコロナ禍により中止となったが、本年は十一月二十三日に文道会館で開催された。

露の瑞・新治・都・眞・団四郎の五人が古典の出し物で一席伺い、満席の会場を爆笑の渦に包んだ。

これまでの社務所大広間から今年初めて文道会館に会場を変えての開催だったが、公演後、露の都さんは「椅子席でご覧頂いた方々もゆったりと楽しんで頂けた。雰囲気も大変よかったです」と話されていた。

講演に先立ち一の鳥居内にある初代五郎兵衛碑の前では、出演者らが参列して碑前祭が斎行され、一門のご健勝と益々の繁栄を祈願した。

露の五郎兵衛一門の皆さん

文道会館にてもみじ寄席開演

露の五郎兵衛碑前祭

京都連歌の会「もみじ連歌会」張行

もみじの季節の恒例となっている京都連歌の会主催の「もみじ連歌会」が十一月七日、紅梅殿で催され、「賦初何連歌」で詠まれた四十四句が奉納された。

菅公が「文道大祖風月本主」と崇められたことから当宮は平安期には漢詩や和歌の神として崇敬され、室町期には連歌の神としても尊崇を集めた。連歌会所も設けられ、将軍任命の北野会所奉行職には宗砌・宗祇・兼載といった錚々たる連歌師が名を連ね、法楽連歌興行の一大拠点となった。

京都連歌の会は、こうした歴史伝統を引き継ぎ、北野に於いて毎年春には「梅ヶ枝連歌会」、秋には「もみじ連歌会」を開くのを恒例としている。

御土居のもみじ苑の公開も始まっており、コロナ禍による緊急事態宣言も解かれた中、紅葉狩りの参拝者らが次々足を止め、紅梅殿上での連歌会の様子を興味深そうに見入っていた。

もみじ連歌会

詠みあげられた連歌

連歌の心ことはじめ

今回の始まりの句・発句は、天神さまの御心を受け、それを本旨として勤めよという宮司からの声かけです。「道を踏め」には、神の御心に叶うという意味があり、紅葉の赤色には「赤心（うそいつわりのない心）」を重ねています。当日は立冬でしたので、散り敷く紅葉を詠み冬とする工夫があります。

次の句・脇句。御神威のおかげで我々もその力を得て、宮には元気な声が満ちています。「みたまのふゆ」という言葉があると聞いております。

第三からは連歌世界の展開の始まりです。霜が輝く野を行く旅人の心を風も励まし、旅人は峠を越えて旅を続けます。ある国では鳴きながら帰る駒鳥の声に夕暮れであることが知られ、淋しい気分に。夜になり白い卯の花に月の光が色を添えさらに美しさをまし、せっかくの月だから寝てしまうのはもったいないと起きて夜を過ごす川辺の隠者の姿へと転じます。

名残表九～十二句目にかけては、ほととぎすの行方を、冥土と現世を往復する鳥だからと、海底に沈んだ平家一門へと展開。悲話を語る琵琶の音に続けて、碇知盛の名セリフをかすめています。そして赤間住吉への祈りによって嘆きの心は浄められてゆくという流れとなっています。

こうしたストーリーは初めから決まっているものではありません。誰も予測ができない新しい世界を、連衆もわくわくしながら待っています。解釈は連衆それぞれですが、見ている方向は同じ。皆の心に叶う句ができれば幸せと祈りをこめて作っています。

当会の次の聖廟法楽連歌は梅の花の香る頃に予定しています。通りすがりに句をお付けいただく笠着も大歓迎です。

（京都連歌の会・大村敦子）

北野天満宮紅葉連歌会

令和三年十一月七日
於　北野天満宮　紅梅殿
宗匠　光田　和伸
執筆　図子まり絵

聖廟法楽
賦初何連歌　紅葉　世吉

初折表

神慮の慰む道を踏め紅葉　重十九
宮はみたまの冬の声ごゑ　和伸
ひらけゆく野はつよ霜のかがやきて　景子
千里の旅を風も勇むる　敦子
峠越えいづくに続く国淋し　裕雄
夕ま暮なり帰る駒鳥　魁成
卯の花は香りひろがる月の色　明美
川辺の庵は臥さず過ぐさむ　節子

初折裏

消えて成り見飽きぬ雲のおもしろき　稔
空も吹きあへで何もうつろふ　満千子
さだめなき身を墨染にかへなまし　かおり
頼めしものをなほ思ひつつ　博介
ちかまさり今ひとたびの秋なれば　武彦
三河は望に妻が面形　和行
さやかなる夜を戻さむにすべもなし　正純
ちちよははよと虫の音ばかり　まり絵
時雨とて磐に入むべく劫経べく　和伸
はかなき名だに永遠に残さん　敦子
天満てる本主大祖のうるはしき　和行
手向けの幣も舞ふか春風　博介
うらうらと花ぞ皆ひと集へかし　かおり
ひとりし思ひかすみわけゆく　満千子

名残表

胸内のかがり火あぢきなくぞ燃え　正純
悔しやかの夜徒言に酔ふ　稔
忘らえぬ俤ばかり身に添へて　かおり
心深さをかくす文箱よ　敦子
摺墨のかほりほのかな裏の辻　満千子
救ふ仏のあらはれやせん　和行
筑紫路はなむ観世音おはす寺　和伸
阿蘇の煙の涯知られず　まり絵
ほととぎすいづ方さして飛びつらむ　正純
海の底より琵琶の聞こゆる　博介
あらましを見るべきほどは見果てたり　稔
赤間住吉心すがしく　和行
唐土へ渡るまで照る月なれや　和伸
蜻蛉を踏までこの歌人あはれ　博介

名残裏

目に過ぎむかなたの山の織る錦　稔
いかに砧はうれしかるらん　和伸
着るなりの衣に遊ぶ童たち　正純
水こそめぐれ埴にほふ里　景子
あらを田にかへり再び鍬持ちて　武彦
甕の上ぞけふ雪ながら春　満千子
あまぎるは雲を懸けたる花の奥　敦子
代代に伝へむ梅つ歌垣　まり絵

句上

橘　重十九　一
光田　和伸　五
丸山　景子　二
大村　敦子　四
鶴崎　裕雄　一
竹内　魁成　一
加美　明美　一
松本　節子　一
関本　稔　四
服部　満千子　四
押川　かおり　三
片山　博介　四
安藤　武彦　二
中村　和行　四
西田　正純　四
図子　まり絵　三

鼎談

大阪大学名誉教授
公益社団法人 温故学会 代表理事
北野天満宮 宮司

加地伸行氏
齊藤幸一氏
橘 重十九

今号は、論語を始めとする儒教関係の大御所である大阪大学名誉教授の加地伸行先生と、天神信仰に篤かった盲目の国学者塙保己一翁の偉業顕彰に務められている公益社団法人「温故学会」代表理事の齊藤幸一先生をお迎えして宮司と話し合って頂いた。
（構成　編集部）

宮司　齊藤先生、先般は「塙保己一の業績と生涯～天神信仰について」という演題で講演して頂きありがとうございました。温故学会の温故というのは孔子（儒家の始祖）の論語『温故知新』からとられたそうですが、温故学会の設立の経緯などをお聞かせ下さい。

塙保己一翁の偉業を顕彰して百十年の「温故学会」

齊藤　論語の中の「温故知新、故きをたずね新しきを知る」から引用して学会名がつきました。保己一の偉業を伝えること、並びに編纂刊行した『群書類従』の版木を保管し、出版することで研究者に利用して頂きたいとの願いから明治四十二年、保己一から四代目の塙忠雄によって設立され、今年で百十年です。設立にあたっては渋澤栄一子爵の尽力がありました。現在も保己一の顕彰活動として会館への参観者の受け入れや『群書類従』の販売、保己一の出身地・埼玉県本庄市とも連携し、各種顕彰事業を行っています。

宮司　その「温故知新」、私たちは論語の言葉だとは知らずに日頃よく使っています。加地先生、孔子がこの言葉に込めた思いというか、儒教の精神などについてお話し下さい。

加地　その話をすると三日ぐらいかかりますよ。儒教を古ぼけた反動的なものだと誤解している人が多いのです。何でも新しいものがいい、というのは欧米の思想です。東北アジアでは全く違う考え方をしていました。自分が新しいと思っていても昔の人はとっくに言っているのです。

古典の中で、昔の優れた人たちが様々言っていることをよく読み、それをベースにして言いなさい、という考え方です。だから新しいものをつくるというよりは先人の優れた知恵を基に発言せよ、ということです。これを誤解して昔のことをやっていればいい、なんて馬鹿なことを言う人もいますが全然違います。ともかく古典を一所懸命読む、その感想を注の形で書いていけば本当のことがよくわかる、今も適用することができる、という考え方です。

加地伸行氏

儒教の基本は親を思い、先祖を思うこと

宮司　私たちは儒教といえば、堅苦しいと考えてしまいがちですが……。

加地　朱子（一一三〇～一二〇〇）という人の朱子学が出てきたからです。

加地氏・齊藤氏・宮司による鼎談

儒教は一族主義ですから親を大切にする。孝行というのが一番中心の徳目なんです。孝行しておれば自然に仁もできるという考え方を、朱子は孝行は仁に向かう方法であると変えたんです。つまり孝行より仁を上にした。孝行より国家を考えることを上にしたんです。論語の歴史の中では大転換ですが、この解釈が鎌倉時代に日本に伝えられ、幕府存続を願う江戸幕府にとって、この解釈は有効であり、江戸時代は道徳を重んじる朱子学が中心となりました。明治以降もその考え方が続きました。が、儒教の基本は親のことを思い、先祖のことを思うことです。

朱子は大天才ですが、南宋の初めのころの生まれで、やがて王朝はモンゴルによって滅ぼされます。何としても王朝を滅ぼされないような国に変えていかねばならない、という強い思いが論語の解釈を変えたさせたわけです。

宮司　『群書類従』を刊行された塙保己一翁は篤い天神信仰者で、その偉業顕彰のために渋澤栄一翁が助力されて「温故学会」が設立されたと聞き、感無量です。渋澤翁も当宮とご縁が深く昭和三年の菅公千二十五年半萬燈祭では大変お世話になり、最近その時に詠まれた直筆の漢詩も見つかりました。また、著書（『青淵百話』）の中に私の大好きな菅公の歌「心だに誠の道にかなひなば　祈らずとても神や守らん」を取り上げ、自らもこの気持ちを持続させていこうと決意されています。日本資本主義の父といわれ、新一万円札の肖像にもなる渋澤翁について、『論語と算盤』などから伺えるものは何でしょうか？

加地　「商業・経済においては物のやり取りだけではだめだ。信用・真心をもってしなければならない」と、渋澤の『論語と算盤』の中にも出てきます。渋澤はヨーロッパに行って為替制度を知ったんですが、実は江戸時代、日本の大商人たちはすでにそれをしていました。例えば江戸で物の売買を決め、代金を大坂で払うとする。危険な現金の持ち歩きなどはせず、売買が決まれば決済文書をつくって判をつき、半分に切って大坂に持たせ、本店から届いたもう半分と印鑑がピタッと合えば間違いない、ということになる。ヨーロッパより七十年早く為替制度があったのです。それは信用がなければ出来ないことです。信用は儒教道徳の中では根本です。それから、渋澤の書き方は中国の古典を学んだ人の書き方です。何かのテーマで書いてきて、一区切りつけば必ずその後に古典を引用しています。これは東北アジアの文章を書くスタイルなんですよ。

二十年間「温故学会」に尽くした渋澤栄一翁

宮司　温故学会に伝わっている渋澤像を教えて下さい。

齊藤　温故学会では、渋澤翁のことを渋澤栄一子爵と代々呼ばせて頂いています。財閥がみんな男爵なのに財界の中で唯一人、一つ上の子爵だったからです。「これぞと決めたら徹底的にその企業を応援する」という人柄だったそうで、温故学会に対しても明治・大正・昭和約二十年にわたって尽力して頂きました。『群書類従』は全部で六百六十六冊ありますが、その売り込みを政財界、軍人にまで幅広くされています。『群書類従』を広めたい、との思いだけでなく、温故学会の財政基盤を売り上げによって強めたいという願いがあったと思います。

宮司　引き受けたらとことん面倒をみられたんですね。

齊藤　そうです。関東大震災で四谷にあった『群書類従』の版木倉庫が倒壊した際も、渋澤子爵が募金活動に力を発揮されます。四代目の塙忠雄は震災の疲れで亡くなり、後を継いだ齊藤茂三郎が東奔西走して資金を集めますが、その際、渋澤子爵は「私の名前ならいかように使っても結構だ」といい、自らも動かれました。昭和二年に温故学会の会館が出来た時には渋澤子爵から

「よくやりました」と声を掛けられ、「本当にうれしかったと」と茂三郎は述懐しています。

儒教の道徳性の根底には宗教あり

加地　もう少し儒教のことを話します。儒教がなぜ東北アジアの人たちに支持されたかといいますと祖先崇拝、先祖を大切にするからです。人間は死が一番こわいが、命は連続しており祖先崇拝は己の死の恐怖をやわらげてくれるからです。儒教の道徳性だけをいう人がありますが、根底には宗教があります。日本の仏教では死後の世界を認めますが、それは実は儒教です。

宮司　日本に儒教がいつ入ってきたのかはわかりませんが、日本は縄文の昔から自分の命は先祖と一体になっているという祖先崇拝の土壌があったと思っています。だから死者の亡骸を粗末に扱うことはできなかった。中国から入ってきた文化を上手に取り入れ、新しい日本文化として育ててきた。その辺りが菅公の「和魂漢才」の精神だったと思います。聖徳太子の十七条の憲法に「和をもって貴しとなす」とありますが、あの和というのは私は縄文の心だと思っています。和魂の一番重要な部分に孔子の儒教が入っているのではないでしょうか。

加地　孔子は、これまであったものをうまくまとめた人だと思っています。その原型となるものは多くの古代人が持っており、孔子はそれを体系的にまとめた。儒教はもっと古くからあり、それがいろんな形で日本にも伝えられていたのでしょう。祖先を祀るというのは感覚的に理解されていたと思っています。儒教は道徳に過ぎない、などという人がいますが道徳だけでは二千年はもたない。宗教だから続いて来たと思っています。

和魂漢才の精神と王朝文化の礎の要因となった『類聚国史』

宮司　全国に神社は八万社ありますが、うち一万二千社が菅公を祀る神社です。単に悲運の御生涯を送られた人が、怨霊的な畏怖から厄除の信仰へと判官びいきに捉えられただけでなく、『類聚国史』の編纂や遣唐使廃止の建議など、その類稀なる学識に秀でた御功績と清廉潔白な生きざまを根底に学問的な信仰へと重層的にも展開していったと思います。

齊藤　菅公は平安時代に怨霊の神さまとなられ、江戸では寺子屋で子どもたちが天神さんを拝んで読誦を徹底的にやり、保己一は自分の学問所の和学講談所に天神さんを祀って朝晩拝んでいました。それで江戸の人は菅公が学問の神さまであることを知った。今、二月二十五日（菅公の祥月命日）が国公立大の入試の開始日になっています。偶然かどうかわかりませんが、ともかく千年以上にわたり神さまとして信仰されているのはすごいですよ。

齊藤幸一氏

宮司　ありがとうございます。もう一つ『群書類従』の組み立て方が『類聚国史』の組み立て方と非常によく似ていると思っていますが、齊藤先生いかがでしょうか。

齊藤　保己一は二十一歳の時、初めて北野天満宮に参拝し、「私の守護神は道真公だ」と心に決め、『群書類従』編纂に着手しますので、当然参考にされたと思います。

宮司　この『類聚国史』は『日本書紀』以下『文徳実録』に至る五国史において、それまでの編年体であったものを神祇・帝王・後宮・人・歳時・政理・刑法・職官などの部門に分類して収録（日本で最初のカードシステムを採用）されていて、後世の役人にとって必須の実用書でもありました。菅公薨去直後に編修された『延喜式』（六十二年後に施行）は直弟子の紀長谷雄や三善清行らによるものですが、実際に活用され王朝文化が華開いたのは、この『類聚国史』によるものと云われています。早くから儒教に続いて仏教などの宗教、律令制度、漢字を始め、様々な文化が怒涛の如く伝来されてより三百年、平安京遷都から五十年後に出現された菅公により、我が国の礎が愈々大成され、千二百年にも及ぶ文化国家が形成されたわけであります。『類聚国史』が編纂されてから約九百年後に、菅公を崇拝する塙保己一翁が、『類聚国史』を参考にしつつ『群書類従』を編纂されたであろうお話は、菅公と保己一翁との御縁を改めて感じるところであります。

菅公と保己一翁、ともに多くの学者を育てた

宮司　身分制度の厳しい時代に盲人で将軍に謁見できる身分になるのはすごいです。

齊藤　当時の老中は松平定信です。幕府としては官学の儒教奨励ですが保己一は和学・国学をさせてほしいと頼み、これを快諾してもらっています。文治政策です。以来、二人は公私にわたる付き合いをしています。和学講談所では、保己一から二代目、三代目も学者を育てていますが、菅公の菅家廊下でも多くの学者を育てており、こんなところにも道真公と塙保己一の共通点があるような気がします。

塙 保己一翁　正装座像

宮司　加地先生、この『天満宮報』の読者に論語の言葉を一つ、二つご紹介下さい。

加地　論語の冒頭のところに出てくる有名な言葉「学びて時に之を習う」をあげておきます。平凡なようですが、なかなかできない。学ぶことは出来ても反芻するのは難しいことです。もう一つ、「人　知らずして慍らず」　周囲が自分の能力を見る目がなくても腹は立てるな。きちんとやっておれば必ず評価する人は出てくる。自分の仕事、やるべきことにベストを尽くすこと。さらにもう一つ上げておきます。「徳　孤ならず。必ず鄰有り」　本気でやれば、決して独りではない、理解する人がちゃんと出てくる。孔子の一生は挫折の一生でした。しかし、彼は挫折しながらも希望を失わなかった。そこがすごいところです。

宮司　さらに一言頂ければ幸いですが、いかがでしょうか。

加地　明治維新後百五十三年になります。昭和二十年の敗戦の年から七十五年目であり、昭和二十年の七十八年前が明治維新です。さすれば、私は明治維新から敗戦までの時間より長く生きていることになります。考えると恥ずかしいし、改めて先人の識見のすごさを感じます。

齊藤　昭和十二年、ヘレンケラーが温故学会にみえています。「小さい頃から塙先生を目標にせよ、といって育てられたので、ここに来ることが出来て大変うれしい」と言い、涙を流しています。ヘレンケラーの来訪は視覚障害の人たちに勇気と希望を与えてくれました。

「日本に生まれた幸せを大事に」　加地氏
「塙保己一翁のことを知って」　齊藤氏
「縄文の心を国文化に大成された菅公」　宮司

宮司　当宮には毎年数多くの学生が参拝します。最後に若者へのメッセージをお願いします。

加地　色々ありますが、日本に生まれた幸せを大事にしてほしい。不平不満はどこにもあります。それを言わず勉強してほしい。努力してほしい。こんな幸せな国で暮らしているのですから、己のなすべきことを本気になってして頂きたい。

齊藤　渋澤子爵は保己一のことを、強固な意志を持っていた、何事にも積極的だった、私利私欲がなく心が清らかだった、心が広く、人の意見をよく聞いた、ユーモアと心の余裕があった―と評しています。現代社会でも通じることだと思っています。保己一は謙虚に誠実に生き、自分の利益ではなく後世の人たちのために『群書類従』を刊行しました。保己一のことを知ってほしいとお願いするばかりです。

宮司　私も縄文の心を以て海外の文化を取り入れる「和魂漢才」の精神を示された御祭神菅公の御心を、これからも若い世代の方々をはじめ、当宮にお越しになられる多くの参拝者の方々に、日々の神明奉仕を通じて、広く伝えていければと思っております。今回は菅公精神と天神信仰千二百年の歴史の一助を現在も担っておられるお二方に、示唆に富んだ素晴らしいお話の数々をお聞かせいただきました。誠にありがとうございました。

加地　伸行（かじ・のぶゆき）氏 略歴
昭和十一年生まれ。現在、大阪大学名誉教授、立命館大学研究顧問。
著書『儒教とは何か』ほか多数。

齊藤　幸一（さいとう・こういち）氏 略歴
昭和二十九年生まれ。公益社団法人 温故学会　代表理事。
渋谷区で塙保己一の偉業顕彰活動中。

京都 平安京の天門

北野天満宮と仁和寺

手を携えて「次世代への文化支援」を講演会で歴史披露し、学生ボランティア育成へ

当宮とご縁のある真言宗御室派総本山仁和寺が手を携えて次世代への文化支援を行っていこう―という趣旨の「仁和寺講演会」（仁和寺主催、北野天満宮協力）が十一月十九日、文道会館で開催された。

仁和寺を建立された第五十九代宇多天皇は菅原道真公（菅公）を重用されたことで知られており、千百年後の今、このご縁を大切にして両社寺が協力して学生ボランティアを育成していくなど次世代への文化支援を行っていこうとの計画のもとに行われた。

今回は第一回で、一部講演会、二部パネルデスカッションの二部構成で行われた。

パネルディスカッションの様子

◇一部　講演会

総本山仁和寺 瀬川大秀第五十一世門跡『仁和寺と宇多天皇』

講演される仁和寺瀬川門跡

一部の講演会では、まず総本山仁和寺の瀬川大秀第五十一世門跡が「仁和寺と宇多天皇」と題して講演。瀬川門跡は「仁和寺には現在国宝十二点、重文四十七点、その他が二万点、まだ未整理のものが約十万点もある。こうしたぼう大な数の文化財を始め仁和寺の歴史を後世に伝えていかねばならないという大きな使命がある。そうした中で、今回、北野天満宮とともに次世代への文化支援を行うという催しは大変意義深い」と、切り出された。

そして、「第五十八代の光孝天皇が発願され、その遺志を継いで即位された宇多天皇が寺を建立されたのが仁和四年（八八八）だったので仁和寺と命名された。室とは僧坊のことで、帝が住まわれたことで御室となり、門跡寺院となった」と、寺の起こりに言及。さらに「宇多天皇は登用した菅公とともに非常によい政治をされた。宇多天皇と菅公が日本の文化の基礎をつくられたと思っており、その根底には人々の幸せを願う利他の心があったと思う」と述べられ、さらに「仁和寺の門跡から代々、北野天満宮へ松（一の鳥居入ってすぐ右の影向の松）が贈られているのは、菅公への感謝の気持ちであり、そこには宇多天皇の心もこもっていると思う。歴史は文化を育む。育まれた文化は人々によって伝えられていく。この気持ちを皆さまと共有させて頂き今回のプロジェクトに御協力をお願いしたい」と結ばれた。

北野天満宮　橘重十九宮司『北野天満宮と仁和寺』

宮司による講演

ついで当宮宮司が「北野天満宮と仁和寺」と題して講演した。

宮司は、パンフレットを配布し、「この資料に基づいて話したい」と前置きし「まず結論を述べると瀬川門跡が述べられたように平安京は仁和寺と北野天満宮、宇多天皇と菅公によって背骨が出来、そこで創られた文化が全国に伝播したといっても過言ではない」と切り出し「大宰府に左遷された菅公は没後怨霊となって北野に祀られ、農耕信仰・厄除け信仰・学問の神などなど幅広い信仰となった。本来怨霊神は都の鬼門に祀られるが、天門に祀られたことに大きな意味がある」と述べた。

そして、平安京の構造や鬼門・延暦寺との関係など話しは多岐に及び「弘法大師・伝道大師は遣唐使だったが、実は菅公の祖父も遣唐使船で唐に渡った。菅家は学者の家柄で菅家廊下という学問所からは多数の学者を輩出した。

官僚や学者・文化人の必需品となり王朝文化・日本文化の礎となる『類聚国史』二百巻を編纂した功績は大きい」と、学者・詩人・政治家など多くの顔を持つ菅公を紹介。

宇多天皇と菅公が行った改革政治を幾つか紹介し「遣唐使廃止は、もう唐から学ぶべきものはない、という理由を『類聚国史』などによりお示しになり、それによって日本固有の文化の礎となり、平安文化（国風文化）が花開いた。その背景には宇多天皇と菅公の絆があったと確信している」と力を込めた。

総本山仁和寺 吉田正裕執行長
『次世代の文化支援について』

次世代の文化支援について講演される
仁和寺吉田執行長

最後に総本山仁和寺の吉田正裕執行長が「次世代の文化支援について」と題して講演された。

吉田執行長は「仁和寺は応仁の乱で大半が焼け、徳川三代将軍家光により復興された。規模は以前より随分小さくなったとはいえ今も広く、門跡の言葉通り多数の国宝・重文などの文化財があり、これをどう次世代に伝えていくかが課題だ。若い人たちが本物を見て五感で文化財の大切さを感じとってくれることも大事だ」とし、立命館大学の学生が修学旅行生に対しボランティアガイドをするという計画に当宮と共に協力していきたいと話された。「菅公は大宰府に行かれる際、仁和寺に別れの挨拶に来たが、勤行中の宇多天皇は会うことが出来なかった。その際、菅公が座ったとされる〝菅公腰かけの岩〟がある。今回のご縁で、仁和寺からは枯れた時に植えてもらえるよう代継ぎの松を天満宮へ奉納、天満宮からは紅白の梅を奉納して頂いたので、腰かけ岩の隣に植えた。両社寺の絆は益々強くなると思う」とし、「こうした不思議なご縁も次世代へ伝えていくことが重要だ」と結ばれた。

◇二部　パネルデスカッション
「自利利他の精神で自分を磨き、社会還元を…」
立命館大学文学部 本郷真紹教授（学校法人立命館理事補佐）

本郷真紹教授が基調講演され、「まず貴重な機会を提供された仁和寺と北野天満宮に感謝したい」と述べられた後「立命館憲章に基づき、今どんな学生修行して体得することの大切さを説かれている。学生に求めるのは自利利他、いろんなものに挑戦して自分自身を鍛えて十分な力を身につけ、それを社会に出た時、還元してほしい。北野天満宮に祀られている菅原道真公は、右に出る人がいないほどの理論を身につけられていた上、寛平の治と称された宇多天皇の政治を助けられた。今回のプロジェクトに仁和寺、北野天満宮が協力して下さるということは大変ありがたく、これを機に両社寺の来歴、弘法大師や菅公の生涯のことなども学んでほしい。これも京都で学んでいるからこそ出来ることで、こんな機会はまたとない。京都の他大学で学ぶ学生にも呼び掛けてほしい」と話された。

立命館大学文学部 本郷教授

この後、本郷教授を中心に瀬川門跡、橘宮司、吉田執行長がパネリストとなり話しが進められた。（省略）

◇

立命館大学の学生、当宮で学ぶ

これを受けた形で十一月二十八日、立命館大学の学生十五名が当宮を訪れ、御本殿に昇殿参拝し、神職の説明を聞きながら境内の御社殿や御土居を巡り、文道会館で北野の歴史や菅公について学んだ。

北野天満宮の歴史や境内について学ぶ立命館大学の学生たち

講演会の様子

に育ってほしいかを文章化し、その具体化を検討している。確かな学力と豊かな個性があれば、どんな社会、環境になっても対応できると思う。それには知（智）識・教養と体験が必要だ。真言宗に事相（実践）と教相（智慧）の教えがある。弘法大師は、この事相、

京都 平安京の天門

令和再興 雪月花の三庭苑

北野天満宮 梅苑「花の庭」公開

清水寺　月の庭

当宮は村上天皇天暦元年（九四七）、平安京の天門にあたる北野の地に創建されて以来、千有余年に亘りその歴史を刻み、世々に天神さまとして朝野を問わず崇敬を集め、菅公薨去より二十五年の節目には、式年大祭「萬燈祭」を斎行し、御神慮を慰め御神威の宣揚を図ってきた。そのような中で、来たる菅公千百二十五年半萬燈祭に向けた記念事業として進めてきた梅苑改修が、昨年ようやく完了し、いよいよ本春より公開する。

本年より当宮梅苑を、江戸時代に俳諧の祖と仰がれた連歌師松永貞徳により作庭された「雪月花の三庭苑」のひとつ北野「花の庭」として再興し、奉告祭ならびに記念式典を、当宮崇敬会北野天満宮講社千玄室会長をはじめ、清水寺貫主森清範様、妙満寺貫首大川日仰様御来駕のもと一月二十六日に斎行する。

「雪月花の三庭苑」は江戸時代、寺町二条の妙満寺（現在は左京区岩倉）の「雪の庭」、清水寺の「月の庭」、そして当宮の「花の庭」それぞれが成就院（成就坊）という塔頭に造られた庭であり、かつては京都の名勝としてその名を馳せたと伝わる。

今回の試みは、明治以降、現存していなかった当宮の「花の庭」を再興させ、令和再興の「雪月花の三庭苑」として三社寺が力を合わせ、京都の新たな魅力を発信していくことを目的としている。困難な時代の中、文化や伝統の力が改めて頼まれる昨今において、京都の景勝地を代表するこれらの歴史を繙き、現代に伝えていくことは大変意義深いことである。

美しく整備された梅苑「花の庭」を多くの方にご覧いただき、連歌師松永貞徳を顕彰するとともに、和歌・連歌の神として崇敬される御祭神菅公の御神徳発揚の一助となれば幸いである。

ライトアップ

舞台より観る「花の庭」

妙満寺　雪の庭

松永貞徳作庭「雪月花の三庭苑」菅公を漢詩・連歌・和歌の神として崇拝した貞徳が作庭した「花の庭」

日本の古典に精通し、歌人としてその道を極め、連歌を学んだのち、俳諧という新しい分野を開拓した松永貞徳は、多くの文化的遺産を遺した。この「雪月花の三庭苑」も貞徳の遺した大きな文化遺産のひとつである。

雪月花とは、もともと中国の「白居易」の漢詩「寄殷協律」の一節に詠われた「雪月花時最憶君」からの語であり、我国においてはすでに萬葉集のなかで、大伴家持が雪月花の和歌を詠むなど、日本の美意識の基準となってきた。「白居易」は日本文学にも大きな影響を与えたといわれ、平安時代、稀代の文化人であり我国における漢詩や和歌・連歌の大祖と讃えられた菅公も、白居易に影響を受けた一人であった。江戸時代になり、先人に学んだ松永貞徳もまた和歌・連歌の神として菅公を敬仰し、「雪月花 一度に見する 卯木かな」など、様々な俳諧や和歌を遺し、自身が作庭した三庭苑には、この「雪月花」の名を冠している。

清水寺に立ち東山の月を観、妙満寺の庭より比叡の雪を眺め、北野の神域で梅花を愛でる、その日本人の愛した自然の美を体現するのが「雪月花の三庭苑」である。様々な困難を経つつも、現代に伝えられ、北野の「花の庭」再興により、妙満寺「雪の庭」、清水寺「月の庭」と共に、再び「雪月花の三庭苑」として、京都の魅力を多くの人々に感じていただきたい。

雪月花の三庭苑　北野天満宮　梅苑「花の庭」公開

開苑期間／令和四年一月二十八日（金）～三月下旬
時間／午前九時～午後四時（午後三時四十分受付終了）
入苑料／大人（中学生以上）一〇〇〇円　小人五〇〇円（茶菓子付き）
※閉苑日は梅の開花状況で判断いたします

見頃の様子

境内に咲く梅花

松永貞徳と北野の連歌

北野文化研究所　室長　松原　史

松永貞徳（一五七一―一六五三）は、貞門俳諧の祖として歴史に名を残す人物である。俳諧とは滑稽味を帯び季語を廃するなど自由度と遊戯性を高めた連歌のことであり、のちの俳句へと繋がっていく日本文学の形式を指す。しかし、その本質は歌人であり和学者であり啓蒙家であったと指摘する者がいるように、とても多角的かつ先進的な人物で、多方面に才を発揮した者であった。連歌師であり、当宮の花の庭を含む雪月花の三庭苑を作庭したとも伝わる松永貞徳とはどのような人物だったのか。いまだ謎も多いが、貞徳と彼の生きた時代に関してできる限り概観していきたい。

▼松永貞徳とは　―生い立ち―

貞徳は、元亀二年（一五七一）、京都の三条衣棚に生まれる。父は連歌師の松永永種、父方の祖父は武家で高槻城主を務めた入江家の出、祖母は下冷泉家に連なるもので、徳川家康に重用された儒学者の藤原惺窩とは親戚関係にあたるという。貞徳は兄姉のもと四男四女の次男として誕生した。永種は幼くして父母を失い曽祖母に育てられたため、松永姓はその曽祖母より受け継いだとされる。貞徳は幼名を「子熊」といい、のちその音を残して「勝熊」「松友」と称し、「逍遊」「逍遊軒」などと号した。

父親の縁もあり、幼少時より連歌師の里村紹巴（さとむらじょうは）から連歌を、九条稙通、細川幽斎に和歌・歌学そして有職等を学び、学問の基礎を整えた。貞徳は『逍遊軒和歌』などに三千首近い和歌を残しているように、最初和歌に没頭し、次第に連歌への興味を深めていったようである。当時連歌の第一人者として名高かった里村紹巴には、大変可愛がられたようで、どの連歌会にも同道していたという。貞徳は父親譲りで書も達者だったようで、天正年間ごろには連歌会の執筆を務めたこともある。

▼貞徳と紹巴と北野の連歌

文禄年間と思われる連歌記録の中には、豊臣の五奉行の一人前田玄以や紹巴とともに、北野の宮仕である能札、能舜と同座した記録が残る。紹巴は毎年正月三日に当宮で行われていた北野裏白連歌の差配を行うなど当宮と関係深かった。能札、能舜とも紹巴と同時代の連歌仲間で、家系図より両者はおそらく兄弟関係ではないかと推測されている。能舜は里村家関連の連歌会において執筆を務めることも多く、北野松梅院と里村家の取り次ぎを担当していた。北野の宮仕にとって連歌は必修科目であったが、同時代の連歌の第一人者里村紹巴を通じて、当宮の宮仕と貞徳も連衆として知己を得ていた。

余談ではあるが、能舜の息子にあたるのが、北野の宮仕であり北野学堂の初代宗匠であると同時に、加賀前田家に召抱えられ小松天満宮別当となった異色の連歌師、能順である。

▼貞徳が生きた時代と北野天満宮

貞徳が生きたのは、乱世が終わり、まさに文芸復興の機運が花開かんとする時代。北野天満宮が豊臣秀吉・秀頼公の篤い崇敬と庇護を受け、現在の社

殿形式が整えられる時代と軌を一にしている。秀吉公が覇権を握った時代に貞徳は十二歳から二十八歳という青年期をおくりその祐筆も努め、林羅山などさまざまな文化人とも交流をもった。

徳川幕府が開かれたとき、貞徳は三十三歳。近世の勃興期に生を受け、八十三歳で没した時は、四代将軍家綱の時代であった。関ヶ原の合戦以降は、中枢にはつかず、在野の歌人、学者として和歌・俳諧・狂歌を作り、膨大な著作を著し、京都三条に開いた私塾で多くの門弟を指導する日々を送った。彼の門下からは北村季吟などが出て、俳諧を全国へと広げる礎を築いた。

▼私塾と庭園―啓蒙家にして庭を好む

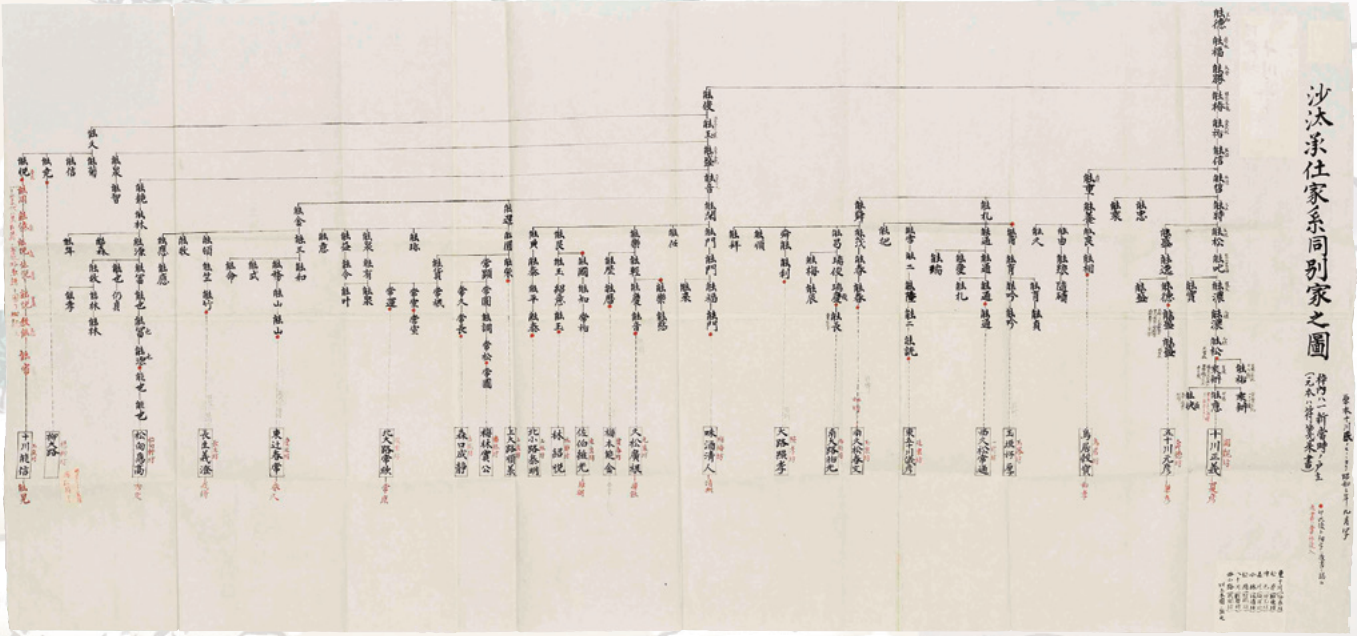
貞徳は私塾において古典の公開講義を行なったり（どうやらこれは秘伝の伝統破りだったようだが）、庶民子弟のための教育に邁進したり、寺子屋のさきがけのようなことを行った。太平の世が訪れ、人々の知識欲が刺激された世相に後押しされてのことと考えられるが、当時としては多分に画期的なことであり、啓蒙家としての貞徳の独自性も指摘されている。

私塾は初め三条衣棚の生家で主宰されていたが、教育が盛んとなり手狭になったため門弟から提供された五条稲荷に別宅を構えた。貞徳六十四、五歳ごろのことだったという。貞徳はここを花咲の宿と称し、晩年の住居と定め多くの著作の執筆にあたった。貞徳は晩年、花咲翁と呼ばれていたが、それは五条花咲宿からくる呼称であったという。

またその後、喜寿を迎える年には、三十三間堂の南東妙安寺の南あたりに念願の「柿園」という別邸を完成させ、その傍の庵で結び、思う存分詩作にふけった。その名の通り柿や桃などの果樹や桜などを植え、庵は屋根、天井、壁まで全て芦で作ったというこだわり様だったという。数寄を極めたこの別邸で、貞徳は詩歌会を開き、執筆を行い、多くの歌を遺した。

雪月花の庭の作庭に関しては口伝で伝わるのみではあるが、貞徳が作庭になみなみならぬこだわりを持っていたことはこの自邸の様子からも垣間見られる。貞徳やその門弟の残した歌には雪月花や自然の美を愛でて詠んだものも多く見つけることができる。江戸初期の文人としてたくましく生き抜いた歌人の功績に改めて敬意を表したい。

【主要参考文献】
小高敏郎『松永貞徳の研究』臨川書店 一九五三年
小高敏郎『松永貞徳の研究 続編』臨川書店 一九八八年（復刻）
伊藤伸江「能順の宗祇追慕―能順年譜を手掛かりにして―」『愛知県立大学説林（68）』二〇二〇年



沙汰承仕家系同列家之図（写） 昭和三年 北野天満宮蔵

新春の祭典・行事

元旦より
初詣

当宮の初詣は、例年受験合格祈願を始め家内安全・厄除開運などの御祈祷が大変多く、御本殿いっぱいに御祈祷者が昇殿参拝するが、一昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大の世情を鑑み、最大限の感染防止対策を施し、かつ参拝者の動向を見極めながら出来る限り密を避けるように適宜昇殿参拝して頂くように配慮する。

授与所等でも、参詣者に対して、消毒液の配置やマスクの着用などしっかりと感染防止対策をして、御札（おふだ）や御守り、招福の天神矢や干支の一刀彫など、お正月の縁起物を求める初詣参詣者に安心してお受け頂けるよう細やかな心配りをしていく。

一月一日
歳旦祭

新年最初の神事である歳旦祭が、午前七時から宮司以下神職により御本殿において斎行される。祭典では、年頭に当たり皇室及び国家の隆昌と世界の平和、氏子崇敬者を始めとする国民の弥栄を祈願する。

一月二日
筆始祭並びに「天満書（てんまがき）」奉納

午前九時から、御本殿に菅公御遺愛の硯などの御神宝を調え、書道の神でもあった菅公の御神徳を偲び、この日から神前書き初め「天満書」を始めることを御神前に奉告する。

「天満書」は、絵馬所で四日まで行われ、子どもたちが書道の上達を願って力強く書き初めをし、作品を奉納する。今年も密を避けるため少し縮小して行う予定。これに家庭で書いて奉納された作品を加え、例年約四千点が、十九日午後一時から二十九日午後三時まで西廻廊で展示され、展示初日に書家の先生らによって審査が行われる。

一月二日まで

献華展　華道家元池坊京都支部

華道家元池坊京都支部による新春を彩るいけばなの奉納。

毎年、元旦と二日に神楽殿で披露され、立花・生花・自由花の形でいけられた正月らしい生花が、初詣参詣者の目を楽しませている。

一月五日まで

楼門に西陣織糸人形

明治初期から西陣・笹屋町一帯で疫病退散を願い作られはじめた糸人形は「笹屋町造り物」として西陣の夏の風物詩として親しまれて来た。昭和四十年代に一時途絶えてしまったが、近年、西陣和装学院や金襴関係者などにより復活したもの。

当宮には、西陣織工業組合の依頼によって、毛利ゆき子西陣和装学院学長の監修指導のもと、同学院と西陣連合青年会が毎年テーマを変えて制作し、正月期間楼門内部左右に展示される。

一月三日

新春奉納狂言

新春奉納狂言が、神楽殿で三日午後一時から、猿楽会と茂山忠三郎社中によって行われる。

一月二十五日

初天神

一月二十五日は、一年で最初の縁日であり、特に「初天神」と呼ばれ、京阪神はもとより全国津々浦々から参詣者が訪れ親しまれている。表参道を始め境内周辺は、骨董や古物商・飲食品の屋台など多くの露店が立ち並び、ひと際賑わう。

この頃は、すでに受験シーズンに入っており、御本殿や牛社の前は、受験合格・学業成就を祈る若者が行列をなす光景が見られる。

二月三日

節分祭と追儺式

午前十時から御本殿で節分祭を斎行し、今年一年間の除災招福を祈った後、午後一時から神楽殿で、茂山千五郎社中による伝統の「北野追儺狂言」が奉納され、併せて上七軒歌舞会の芸舞妓による日本舞踊の奉納が行われる。そして最後に、狂言師と芸舞妓によって、神楽殿の上から威勢よく豆が撒かれる。

当宮は、京都の「乾（北西）の隅」の守り神として創建されて以来、災難除・厄除の社としても篤い信仰があり、節分には「四方詣り」と称して、当宮を始めとする四社寺を参拝し、無病息災を祈る習慣が根付いている。

二月二十五日

梅花祭

九百有余年の歴史を誇る祭典

菅公の祥月命日となる二月二十五日午前十時から、御本殿にて梅花祭を斎行し、御祭神の御遺徳を偲び奉り、御神威を景仰申し上げる。

御神前には、梅の花を用いた「梅花の御供」「紙立」という、七保会会員が調製した二種の特殊神饌が奉饌される。また、貞明皇后御参拝の古例により、宮内庁京都事務所長が、皇后陛下の御代理として拝礼される慣わしとなっている。

例年境内では、可憐に美しく咲いた梅花の下、上七軒の女将・芸舞妓らの奉仕により「梅花祭野点大茶湯」が催され、公開中の梅苑の馥郁たる花の香を愛でる人々や、縁日を楽しむ見物客も相まって、境内は非常に多くの参拝者で賑わうが、ここ二年は新型コロナウイルス感染症の影響で縮小されて開催されてきた。

本年も祭祀は厳粛に斎行するが、野点茶会等の行事は社会情勢を見極めた上で開催の有無を判断する。

三月二十五日

梅風祭

当宮崇敬者団体、梅風講社の祭典である梅風祭を、午後三時半から御本殿で斎行する。

梅風講社の更なる隆盛と講社員の無病息災を祈願し、白衣緋袴に千早を身にまとった「八乙女」が鈴舞を優雅に奉納する。

天神さんの迎春準備 相ととのいました

事始め 大福梅の授与始まる

元旦の祝い膳に縁起物として用いられる大福梅の授与が、事始めの十二月十三日から始まった。

大福梅は、元旦に自身が初めて口にする白湯や初茶に入れて飲むことで邪気を祓い一年間の無病息災を祈る梅と御縁が深い当宮ならではの縁起物。平安時代中期の天暦五年（九五一）、疫病が流行した際、時の村上天皇がこのお茶を服されて病が平癒されたとの故事に因む。

大福梅は、境内約千五百本の梅の木から採れた梅の実を塩漬け、土用干しにして調製し、裏白を添えて奉書紙に包んで授与する。「大福梅を入れたお茶をいただくのが元旦の恒例行事」との参拝者も多く、「天神さんの御利益でコロナウイルスにかからないように…」という参拝者が朝早くから授与所に並んだ。

大福梅以外にも楼門の大絵馬を小型にした干支絵馬など新年の縁起物の授与も始まり、授与所は早くも正月ムードに包まれた。

コロナにも睨み「寅」の大絵馬奉掲 新春の雰囲気醸す

令和四年の干支「寅」の大絵馬が十二月六日夕刻、楼門に掲出され、一足早く新春の雰囲気を醸しだした。

干支絵馬は無垢のヒノキ材を使い、幅三・三m、高さ二・二五m、重さ約百二十kgという大きなもの。原画は、昨年まで十二年間、干支絵馬を描き続けてこられた日本画家三輪晃久氏の長女純子（すみこ）さんの作品で、父娘二代にわたる大絵馬の原画制作となった。純子さんは「病魔退散の願いを込めて描きました。イメージ通りだったのでうれしい」と、晃久氏とともに大絵馬を見上げていた。

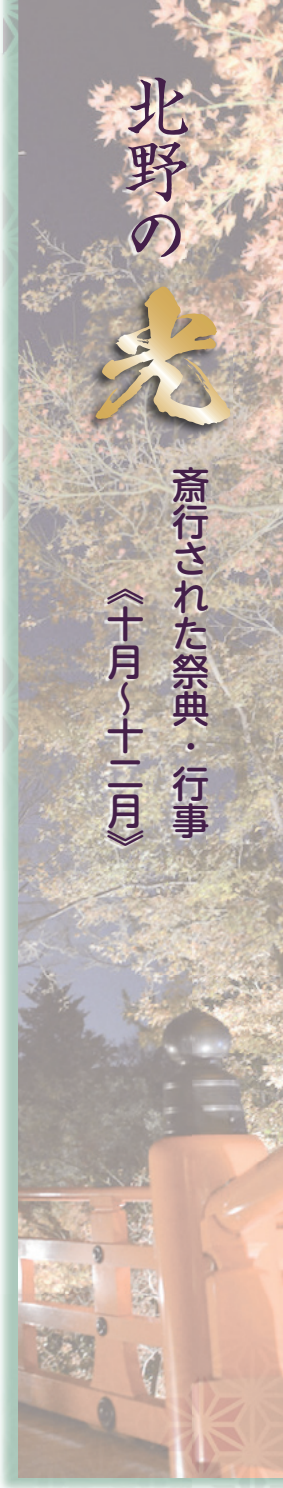
取り付けには宮大工や神職約十人が当たったが、多くの参拝者や修学旅行生が見守り「もう正月や」の弾んだ声も飛びかっていた。奉掲期間中は楼門とともに大絵馬もライトアップする。

新年縁起物 干支絵馬頒布

コロナ対策万全、参拝者の応接心得学ぶ 正月奉仕者研修

初詣参拝者の応接にあたる臨時巫女奉仕者の研修会が十二月四日行なわれ、約百二十人の学生たちが当宮の由緒や参拝者の接遇の仕方などについて学んだ。コロナ禍による密を避けるため研修は三回に分けて行われた。

白衣・緋袴の巫女姿に着替えた学生たちは御本殿に正式参拝して初詣の応接が無事に務められよう祈った後、御社殿を始め境内各所の説明を受けた。この後、文道会館で当宮の由緒、御札や御守りの種類などの説明を受け、応接の仕方、授与する際の心得などについて学んだ。とくに、落ちついてきているとはいえ依然コロナ禍で迎える正月だけに、コロナの感染防止対策についても入念な指導を受けた。



北野の光

斎行された祭典・行事《十月～十二月》

恭しく一條天皇行幸始祭を斎行

一條天皇行幸始祭（中祭）を十月二十一日午前十時から御本殿で厳かに斎行した。

寛弘元年（一〇〇四）のこの日、一條天皇が初めて当宮へ行幸されたことを寿ぐ祭典で、宮司が恭しく祝詞を奏上し、皇室の弥栄・国家の安泰を祈願した。

一條天皇の当宮への初行幸については藤原道長の日記『御堂関白記』にも記されており、これ以降、歴代天皇の当宮への行幸は二十数度に及んだ。

一條天皇の初めての行幸は、当宮にとって極めて重要なものであり、行幸始祭が長年にわたり斎行されてきた。しかし、戦後の混乱期に途絶え、一條天皇行幸から一〇一〇年にあたる平成二十五年、六十数年ぶりに再興された。

境内華やぐ　七五三詣で

十月下旬から十二月初旬にかけ、七五三詣での親子連れで境内は華やいだ雰囲気に包まれた。

今年の七五三シーズンは、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを見せ、比較的穏やかな小春日和の好天の日が多く、土曜・日曜・祝日を中心に羽織、袴、美しい振袖姿の子どもたちで賑わった。

例年、師走に入ると七五三詣では少なくなるが、今年はやはり混雑を避けるためか、十二月に入っても参拝の姿が見られた。

昇殿参拝して御祈祷を受けた子どもたちは授与品の千歳飴・知恵の御守り、祝い笹を手に、マスク越しでもはっきりわかる笑顔でお父さんお母さんの向けるカメラにポーズをとっていた。

新穀を供えて新嘗祭を斎行

五穀豊穣に感謝する新嘗祭を十一月二十三日午前十時から御本殿で斎行した。

新嘗祭は、天皇が新穀を天神地祇に供えて食され、五穀豊穣に感謝される飛鳥時代から伝えられている重要な宮中祭祀。全国各地の神社でもこの日斎行される。

御神前には今年収穫した稲穂や米、醸造されたばかりの白酒を始め、海・山の幸が献じられ、宮司が祝詞奏上、巫女が舞（豊栄舞）を奉納して今年の五穀豊穣に感謝し、皇室の弥栄と国家の隆盛、氏子崇敬者の家内安全を祈願した。

赤い柏葉に御飯を包んだ特殊神饌供え
日々の神恩に感謝する赤柏祭斎行

赤くなった柏の葉に炊いた御飯を包んだ当宮独特の特殊神饌を御神前に供え、日々の神恩に感謝し、人々の無病息災を祈願する赤柏祭を十一月三十日午前十時から御本殿で斎行した。

柏の葉は、古代より神前への供物の下に敷くために用いられるなど、祭事用として神聖に扱われてきた。天皇陛下が一代一度きり奉仕される大嘗祭の神饌を盛り付ける容器も、竹と柏の葉で作られる。

当宮では六月十日に青い柏の葉に御飯を包んでお供えする青柏祭とこの日の赤柏祭を、季節の変わり目の神事として古くから斎行している。『広辞苑』にも「京都北野天満宮の祭り」として書かれているほど珍しい祭儀と云える。

柏の葉は、境内に自生する柏の木から採取して使うが、安永七（一七七八）年の記録には神供用として採ったことが書かれ、その四年後と十四年後には柏の木が奉納され、植えたことも記録されている。

この日の祭典では、赤い柏の葉に包んだご飯だけでなく、これも古くからの習わしによって胡桃（くるみ）も一緒に供えられた。

『重陽後一日』にちなむ余香祭
本年も神事のみ斎行

名詩『重陽後一日』をつくられた菅公を偲ぶ余香祭を十月二十九日午後二時から御本殿で斎行した。

祭典に併せ余香祭にちなんで全国から寄せられた献詠（今年の兼題は『袖』）の中から濱崎加奈子氏（歌人で公益財団法人有斐斎弘道館館長）が選んだ十三首を、車座になった向陽会会員らが綾小路流の独特の節回しで詠み上げる献詠歌披講式を行うのが通例だが、コロナ禍により昨年に引き続き今年も披講式は取りやめとなり、白と黄色の菊花を供えた御神前に献詠歌を奉納し、神事のみの斎行となった。

右大臣だった菅公は昌泰三年（九〇〇）九月、清涼殿での重陽の宴に召されて詩を詠まれ、醍醐天皇から御衣を賜った。一年後、配流先の大宰府でその時の栄華を追想され、「去年の今夜清涼に侍す　秋思の詩篇独り腸（はらわた）を断つ　恩賜の御衣今茲（ここ）に在り　捧持して毎日余香を拝す」の名詩『重陽後一日』をつくられた。余香祭は、この故事にちなむ菅公を偲ぶ祭典。

令和三年余香祭献詠披講選歌『袖』

疫病（えやみ）にて　命はかなし　健やかな
人もまた逝き　袖ぞひぢぬる　　波多野　千寿子

讒言の　多きは今昔　同じきに
道真公も　袖絞るらむ　　若狭　静一

風はらみ　袖にためたる　木犀の
香を届けんと　歩み早めつ　　朝比奈　栄子

吹く風に　香をだに届けと　袖振りて
まなこは遥か　都をぞ見る　　白石　雅彦

我が袖は　飛鳥の川の　瀬をはやみ
ひぢつるなりや　明日を頼みて　　田口　稔恵

神まへに　真袖ひろぐる　菊の花
露あまねきて　民まもるらむ　　濱崎加奈子

菊の花　着せ綿供ふ　京より
筑紫島に　袖は振りてな　　賀茂御祖神社権禰宜　田中　明仁

老松に　うき雲はらふ　風招（を）くや
袖翻し　翁さきはふ　　八坂神社権禰宜　仲林　亨

大祭り　神前（みまえ）に奏づ　神楽女の
返りし袖や　木犀の香す　　神田神社宮司　平野　修保

疫神も　心和（やは）すや　巫女神楽
袖調（ととの）へて　浦安舞へは　　御霊神社宮司　小栗栖元徳

秋深し　遺徳を偲ひ　乙女子は
袖うちあはせ　み前に詣つ　　向陽会　稲垣　邦弘

こよひはと　神去月の　菊の庭
かよふ幽香　袖も濡羅世里　　向陽会会長　冷泉　為弘

疫病の　退散祈る　神仏（かみほとけ）
袖を連ぬる　北野御霊会　　北野天満宮宮司　橘　重十九

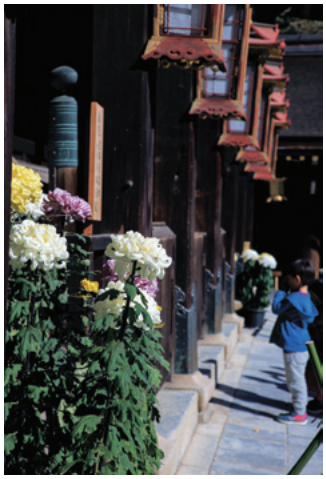
令和四年　献詠兼題

▼一月　窓　▼二月　初音　▼三月　理
▼四月　東　▼五月　馬　▼六月　百合
▼七月　朝戸　▼八月　松風　▼九月　残月
▼御旅所　田　▼十月　夕霧　▼余香祭　筆
▼十一月　野辺　▼十二月　経

京都菊友会会長　岩下友行氏
京都菊栄会会長　小林　浩氏
御神前に菊花御奉納

京都菊友会会長岩下友行氏と京都菊栄会会長小林浩氏の両名が、重陽の節句にあわせ、黄色・白色・紫色などの色鮮やかな菊花を御神前に奉納された。

当宮では毎年十一月二十九日に『重陽後一日』の名詩をつくられた菅公を偲ぶ余香祭を斎行し、御神前に菊花を献上するなど、菊の花は御祭神にゆかりの重要な意味を持つ花である。両氏は菊の花の愛好家で、当宮への崇敬が篤く、例年この時期にあわせて、御本殿前に菊花を奉納されている。


京都菊友会 会長 岩下友行氏献上の菊花

京都菊栄会 会長 小林浩氏献上の菊花

京都子ども観光大使の催し開催

「あそぼう！まなぼう！京都子ども観光大使」の催しが十一月二十日、当宮で開かれ、七人の子ども（他に未就学児三人）とその保護者らが参加し、当宮への理解を深めた。

子ども観光大使は、地域の歴史や文化を学び、その魅力を発信し、よりよい地域づくりに役立ててもらおうという全国的な催しで、当宮での開催は平成三十年二月以来通算七回目。

文道会館で百人一首遊びをした後、神職から当宮や菅公の説明を聞き、御本殿参拝。神職の案内で境内を回り、保護者らに気にいった場所を撮影してもらいながら、会館に戻り、「境内にあるさすると願いのかなう石の動物は？」などといったクイズに挑戦した。また、境内で撮影した写真をプリントアウトし、北野の魅力を発信するポスターを作った。

子どもたちは一様に「楽しかった」と満足顔で、観光大使の認定書を受けた。

北野天満宮燈籠保存会参拝
京都紙業者の子孫「京都紙商」の崇敬篤く

和紙の発祥地として古くより当宮に崇敬の篤い京都の紙関係業者で組織される「京都紙商」の役員五名が、十二月十二日に御本殿にて正式参拝した。

当宮の境内西側に築かれている史跡御土居を流れる紙屋川は、平安時代、官用の製紙所として「紙屋院」が置かれた場所であることから、紙関係業者の当宮への信仰は篤く、明治三十五年の菅公千年大萬燈祭の折には、表参道に二基の石燈籠を奉納している。以来、この石燈籠を未来永劫保存し、守り伝えていくため、北野天満宮燈籠保存会として活動をしている。参拝当日は、小谷敬二代表が玉串を捧げ、保存会の益々の発展を祈念された。

全国天満宮梅風会理事会開く　全国総会は六月六日、京都で開催

全国天満宮梅風会（会長・当宮宮司）の理事会が十一月十二日、文道会館で開かれ、令和四年度の全国総会を六月六日、京都で開くことなどを決めた。

全国総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い二年連続中止となっており、会長が議長となって令和四年度の第五十六回総会の開催方法などについて協議が行われた。

コロナ禍は現在落ち着いているとはいえ第六波が喧伝されている状況に鑑み、総会は六月六日、京都において一日（日帰り）で行うことなどを決めた。

六月六日の行程は、当宮御本殿へ正式参拝後、京都御所で高御座を参観した後、皇室との縁が深い泉涌寺を拝観、市内のホテルで総会を開く予定。

神宮大麻暦頒布始奉告祭　斎行

伊勢の神宮の御札「神宮大麻」と「暦」を各ご家庭に頒布する神宮大麻暦頒布始奉告祭を、十月二十六日、昨年に続き本年も当宮文道会館にて斎行した。

祭典は京都府神社庁京都市上支部髙屋定房支部長斎主により、同神社庁副庁長鳥居肇氏はじめ管内神社関係者ら十名の参列のもと、厳粛に斎行された。上支部神職代表として、吉田神社の澤井隆男宮司による玉串拝礼にあわせ参列者が列拝。引き続き行われた神宮大麻暦頒布で、髙屋支部長より管内宮司代表の御霊神社小栗栖元德宮司に神宮大麻・暦が手渡された。

神宮大麻は氏神様の御神札と共に神棚にお祀りし、国家の隆昌・家内の安穏をお祈りする我が国古来の慣わしで、総氏神である神宮では神社本庁や各都道府県の神社庁を通じ、年末までに神宮大麻と神宮暦を全国崇敬者のご家庭に頒布を行われている。

三カ月ぶり「天神市」雨の中再開

コロナ禍の影響で七月以来休止となっていた御縁日の「天神市」が十月二十五日再開された。あいにくの雨空となったが、三カ月ぶりの再開に参道は活気づいた。

京都府内に出されていた緊急事態宣言が九月末で解除されたことに伴うものだが、各露店は消毒液や飛沫防止のビニールを置くなど感染予防対策を取っての対応となった。

三カ月ぶりの「天神市」の再開に「雨は残念だが、久しぶりの御縁日の露店を見て、心が和みました。このまま平穏な日常になってほしい」という参拝者の声も聞かれた。

西陣デジタル申告　納税宣言式

公益社団法人上京納税協会（長嶋正晃会長）などは、十一月二十五日、文道会館で「西陣デジタル申告・納税宣言式」を行った。

コロナ禍の中、非対面の申告、納税を推進するためスマホを利用した電子申告やキャッシュレス納付の普及に取り組んでいる税務当局に呼応したもので、約三十人が出席。長嶋会長の開会の挨拶に続き西陣織工業組合の舞鶴一雄理事長が「工業組合としてもあらゆる税務手続きが税務署に行かずに出来る社会の実現に向け、電子申告やキャッシュレス納付に積極的に取り組むことを宣言する」との宣言文を読み上げた。

宣言式の後、参加者らは会館前で出て、上七軒の舞妓もまじえ、縁日の参拝者にチラシなどを配ってキャッシュレス納付の拡大を呼び掛けた。

NHKの朝ドラ「カムカムエヴリバディ」参道に昭和の露店再現しロケ

好評放映中のNHKの連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」の撮影が十一月十六日、楼門前の表参道で行われた。「カムカムエヴリバディ」は、朝ドラ史上初めてという三人のヒロインが織りなす百年に及ぶファミリーストリーで、NHK大阪局が制作する意欲作。

この日は、小春日和の好天。コロナウイルスの感染者も減少しており、朝から紅葉狩りの参拝者や修学旅行生も多く、たまたま出くわした人気テレビのロケに喜び、珍しそうに見つめていた。撮影はこの後、上七軒でも行われた。

当宮参道での撮影シーンの放映は一月下旬に予定されている。

正式参拝された皆様（敬称略）（十月～十二月）

十月　一日（金）　奉行会・北野祭保存会・神若会
十月　五日（火）　妙高山心行寺 住職 亀山環慧氏
十月　十三日（水）　京都産業大学 下出ゼミ
十月　二十七日（水）　故阪本是丸氏御令妹
十月　二十七日（水）　公益社団法人 門真納税協会
十一月　八日（月）　株式会社伊藤園マーケティング部 専務取締役本部長 社三雄氏
十一月　十二日（金）　全国梅風会理事会
十一月　十六日（火）　瓢箪稲荷神社
十一月　十九日（金）　林泉短歌会
十一月二十三日（火）　露の五郎兵衛一門
十一月二十八日（日）　立命館大学 ボランティアガイド研修会一同
十二月　十二日（日）　京都紙商燈籠保存会
十二月　十二日（日）　京都府神社庁役員会

挙式された皆様（十月～十二月）

十月　十六日（土）　伊住 禮次郎・唯　ご夫婦
十月　二十三日（土）　髙坂 拓・美佳子　ご夫婦
十月　二十三日（土）　井上 右・温美　ご夫婦
十一月二十一日（日）　阿部 桂大・美甫　ご夫妻
十一月二十七日（土）　北川 雄也・奈津美　ご夫婦
十二月　四日（土）　久保田 彰・彩　ご夫婦
十二月　十二日（日）　戸祭 聡・智子　ご夫婦

新郎新婦様、御両家の皆様の末永いご多幸をご祈念申し上げます。

祭事暦（1月1日～3月31日）

［1月］
1日 午前7時　歳旦祭（中祭式）
2日 午前9時　筆始祭 天満書（午前10時）
　神前書初め（4日まで）
　家庭書初め（5日まで受付）
3日 午前9時　元始祭
　奉納狂言（午後1時）茂山忠三郎社中
7日 午前9時半　若菜祭
9日 午前10時　摂社白太夫社例祭
14日 午前10時　末社伴氏社例祭
15日 午前10時　月次祭 御粥祭 成人祭
25日 午前9時　月次祭
　午後4時　夕神饌
　初天神
26日 午前10時　梅苑「花の庭」再興奉告祭
29日 午後3時　書初め「天満書」授賞式

［2月］
1日 午前10時　月首祭・斎祭
3日 午前10時　節分祭
　北野追儺式（午後1時）
　追儺狂言　茂山千五郎社中
　日本舞踊　上七軒歌舞会奉納
　豆撒き
4日 午前10時　霞祭
　摂社地主社霞祭
10日 午前10時　末社稲荷社 初午祭
11日 午前9時半　紀元祭
15日 午前10時　月次祭
23日 午前9時半　天長祭
24日　参籠
　午後4時　梅花祭前夕饌
25日 午前10時　梅花祭（中祭式）
　午後4時半　夕神饌
　野点茶会（午前10時）上七軒歌舞会奉仕

［3月］
1日 午前10時　月首祭
12日 午前10時　摂社老松社例祭
　摂社福部社例祭
14日　参籠
15日 午前10時　春祭（大祭式）
21日 午前10時　春季皇霊祭遥拝式
　摂末社 春季祭
25日 午前9時　月次祭
　午後3時半　梅風祭 八乙女舞奉納
　午後4時半　夕神饌
27日 午前10時　摂社宰相殿社例祭

月釜献茶（1月1日～3月31日）

［1月］	1日	献茶祭保存会	休会	（明月舎）
	15日	献茶祭保存会	霊群宗伴	（明月舎）
		松向軒保存会	山本宗繁	（松向軒）
	30日	梅交会	休会	（松向軒）
		紫芳会	休会	（松向軒）
［2月］	1日	献茶祭保存会	北野宗道	（明月舎）
	13日	梅交会	休会	（松向軒）
	15日	献茶祭保存会	金澤宗維	（明月舎）
		松向軒保存会	佐藤宗陽	（松向軒）
	27日	紫芳会	紫芳会	（松向軒）
［3月］	1日	献茶祭	長谷川宗葉	（明月舎）
	13日	梅交会	休会	（松向軒）
	15日	献茶祭保存会	官休庵社中	（明月舎）
		松向軒保存会	奥水社中	（松向軒）
	27日	紫芳会	和田野社中	（松向軒）

献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠まれました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

十月「秋桜」

爽風に揺られ狭庭を華やげる
　満開競ふ秋桜花　　滋賀県　波多野千寿子

西風に揺れる秋桜かりそめの
　恋はマイナスイオンに隠る　　京都市　若狭　静一

不自由を常と思へば不足なし
　秋桜好きの祖母の伝言　　兵庫県　村島　麗門

秋桜の細き糸葉の健気さよ
　長き命を我も祈りて　　京都市　小山　博子

日々通る道にならひし秋桜の
　赤桃白の花は笑へり　　京都市　塩小路光胤

年老いた母のしぐさに思ひ出す
　窓辺の陽だまり秋桜の歌　　東京都　白石　雅彦

この花を宇宙と名付けしいにしへの
　人の叡智よ秋はさやけし　　京都市　田口　稔恵

【評】
コスモスのこと。花が桜の形に似ていることから「あきざくら」という名がつけられた。コスモスの名はギリシア語で美しいの意。星が美しくまたたく宇宙も同じ呼び名。そこからつけられた花の名に思いを馳せる歌も。

十一月「唐崎」

遠き日にボランティア仲間と訪れし
　風光明媚唐崎の景　　滋賀県　波多野千寿子

帰国して唐崎で巻く書簡かな
　厳格外務に国益伝ふ　　京都市　小山　博子

本物を見に行きたしと思ふれど
　暫く延期唐崎の松　　兵庫県　村島　麗門

かりそめの一夜の雨は唐崎の
　松ぞ恋しき都鳥かな　　京都市　若狭　静一

雨も降り人目もかれし唐崎の
　夜の松枝ににほも眠らむ　　京都市　塩小路光胤

瀟湘の夜雨に並ぶ唐崎の
　松に日吉の神降り立ちぬ　　東京都　白石　雅彦

風花はとけて涙になるやらむ
　われからさきに恋ふが苦しさ　　京都市　田口　稔恵

【評】
近江国の歌枕。琵琶湖西岸の崎で、柿本人麻呂が「ささなみの志賀の唐崎幸くあれど大宮人の船待ちかねつ」と詠んだ。月とともに詠まれたり、「唐崎の夜雨」は近江八景の一となり、「唐崎の一松」は名勝として知られた。

十二月「高砂」

人生の門出を祝ふ結納は
　部屋一杯に高砂の品　　滋賀県　波多野千寿子

断捨離で実家の荷物整理する
　高砂人形だけは残して　　兵庫県　村島　麗門

高砂の人形見ると手を合はせ
　老ひの境地行く先思ひて　　京都市　小山　博子

高砂の松を濡らすは冬の雨
　流せ二年の禍をことごとく　　京都市　若狭　静一

四海波静かなれとぞゆく年も
　高砂の松かけて祈らむ　　東京都　白石　雅彦

高砂のまつ心にもいさはやの
　波静まらなむ今日も明日も　　京都市　田口　稔恵

【評】
播磨国の歌枕。瀬戸内海に注ぐ加古川の三角州で、古今集仮名序に「高砂住江の松も相生ひのやうに覚え」とあり、世阿弥作の謡曲「高砂」につながる。「高砂の松」を「待つ」との掛け言葉とした恋歌も多い。

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

天神さん 思い出写真館

今号はガラス乾板写真の中から一枚を紹介する。京都の写真家、黒川翠山によって撮影された昭和初期とみられる当宮正面の写真である。現在一の鳥居が建っている場所なのだが、昔の境内はグンと広く、これは当時の二の鳥居となる。両側にある大きな石燈籠も現在はなく、今は左側に昭和七年十二月建立の石燈籠が建っている。

前方に木製の三の鳥居がかすかに見える。何を売っているのかわからないが露店があり、その前にたたずむ人、参道を歩く人の姿も。洋服でなく着物姿なのも時代を感じさせる。入ってすぐ右側の影向の松も今は植え変わっており、一見して参道界隈は松の木が相当多かったことが伺える。

黒川翠山（一八八二～一九四四）は、上京区の呉服商なのだが、若くして写真の魅力にとりつかれ、各地で多くの写真を撮った。京都の社寺を撮影した写真も多く、当宮にもたくさんのガラス乾板写真を奉納している。

天満宮 歴史の一齣

北野社と和歌三神
―聖廟法楽和歌短冊―

京都大学名誉教授
藤井 譲治

当社には、朝廷で古今伝授がおこなわれた年に、天皇・上皇から法楽和歌短冊が奉納されてきた。

これらの奉納和歌短冊は、これまですべてが公開されることはなかったが、当社では五年後の半萬燈の事業の一つとして調査を始めた。まだ、調査は終了していないが、その一端を紹介することにする。

和歌三神は、後奈良天皇の日次記である「天聴集」（天文四年＝一五三五）によれば、室町時代には南無住吉大明神・南無天満大自在天神・南無玉津島明神すなわち、住吉社・北野社・玉津島社であった。

しかし、近年の研究では江戸時代の和歌三神は住吉社・玉津島社・人丸社とする研究が主流を占めている。

その根拠の一つに、江戸時代を通じて住吉社・玉津島社等に、天皇・上皇への古今伝授に際し、天皇・上皇から和歌短冊が奉納されてきた事実があげられてきた。これらは、『住吉大社奉納和歌集』『紀州玉津島神社奉納和歌集』で紹介され、既知の事実である。

それによれば、寛文四年（一六六四）の後水尾法皇から後西上皇への、天和三年（一六八三）の後西上皇から霊元天皇への、延享二年（一七四五）の烏丸光栄から桜町天皇への、宝暦十年（一七六〇）の有栖川職親親王から桃園天皇への、明和四年（一七六七）の有栖川職仁親王から後桜町天皇への、寛政九年（一七九七）の後桜町上皇から光格天皇への、天保十五年（一八四四）の光格上皇から仁孝天皇への、それぞれの古今伝授に際し、天皇・法皇から法楽和歌短冊が奉納されている。

これまでは知られていなかったが、住吉社・玉津島社に奉納された同じ年に、北野社にも法楽和歌短冊が天皇・上皇から奉納されている。

このことは、江戸時代においても朝廷では和歌三神として北野社を位置づけ尊崇されていたことを示すものである。

寛文六年の例をあげると、住吉社・玉津島社へは同年六月一日に短冊五〇枚が、北野社には六月二十五日に短冊一〇〇枚が、後西上皇から奉納されている。

奉納和歌短冊の数は、住吉社・玉津島社がいずれの年も五〇枚であるのに対し、北野社へは、仁孝天皇を除いて後西上皇・霊元天皇・桜町天皇・桃園天皇・後桜町天皇・光格天皇いずれもから一〇〇枚が奉納されている。奉納の枚数からは、北野社がより重んじられていたことを窺わせる。

聖廟法楽和歌（短冊）後西天皇御製他 五十枚のうち

北野天満宮 梅苑「花の庭」再興記念

雪月花と宝刀の煌き

［期　間］令和4年1月1日（月・祝）～6月26日（日）

〈第1期〉1月1日（土・祝）～1月10日（月・祝）

〈第2期〉1月28日（土）～4月3日（日）

〈第3期〉4月9日（土）～6月26日（日）

＊展示替え・メンテナンス期間は休館

鬼切丸（別名 髭切）重要文化財

北野の刀剣 一挙公開

［場　所］北野天満宮 宝物殿

［時　間］9時～16時（最終受付15時45分）

［拝観料］大　人……1,000円

中高生……500円

小人・修学旅行生……250円

全国天満宮総本社

北野天満宮

京都・平安京の入口

第1回

北野盆梅展

梅の名所、天神さんの総本社 北野天満宮で盆梅展を初開催

令和四年、初めて北野天満宮に
「長浜盆梅展」の梅が登場！
菅公ゆかりの梅の名所、
北野天満宮の梅苑とともに、
北野と長浜との梅花の競演を
お愉しみください。

［会期］ 令和4年1月28日(金)～2月13日(日)
［時間］ 9:00～16:00 ◎最終受付は15:40まで ◎会期中無休
［場所］ 北野天満宮 文道会館ホール（梅苑内）
料金：300円（未就学児無料） ※梅苑入苑料 別途1,000円が必要となります。

［出展協力］ 公益社団法人 長浜観光協会
［後援］ 公益社団法人 京都市観光協会

全国天満宮総本社
京都 平安京の天門
北野天満宮

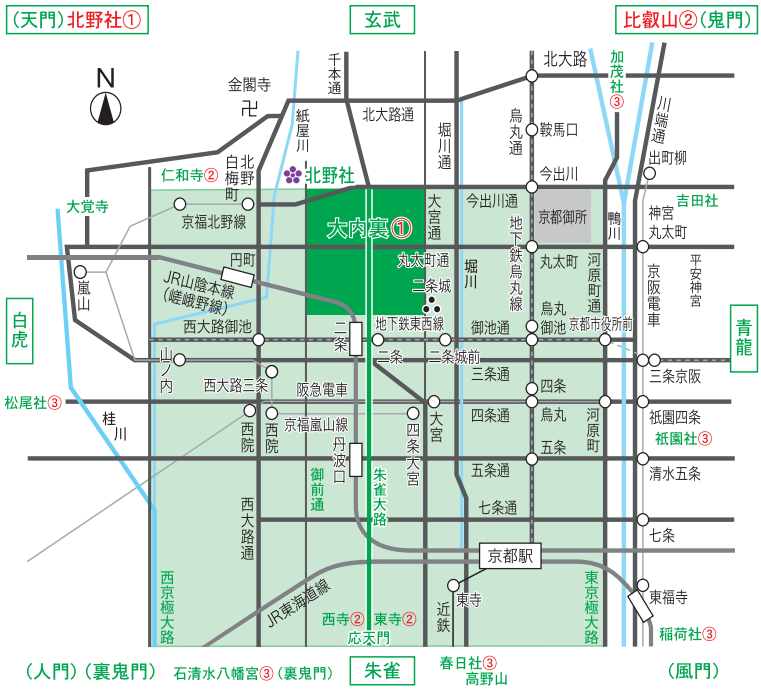
天神信仰の主な歴史

（注）歴史事項　北野天満宮事項　伝説事項

菅公薨去後、およそ百年かけて醸成され千年受け継がれる天神信仰

承和	十二年	八四五	菅原道真公（菅公）御誕生（父 是善 母 伴氏）	父 是善との親子の契り
斉衡	二年	八五五	初めて詩「月夜に梅華を見る」を作る	（菅公十一歳）
貞観	元年	八五九	菅公元服　文章生を目指し勉学	菅公 石清水八幡宮参拝
貞観	四年	八六二	文章生の試験に合格	（菅公十八歳）
貞観	八年	八六六	比叡山延暦寺円仁の『顕揚大戒論』の序文を書く	
貞観	九年	八六七	文章得業生となる	（菅公二十三歳）
貞観	十二年	八七〇	この間少内記（詔勅の起草係）式部少輔など任ぜらる（菅家廊下を継承）	（菅公二十六歳）
仁和	二年	八八六	讃岐守に任ぜられる	（菅公四十二歳）
仁和	四年	八八八	〈阿衡問題〉につき藤原基経に意見書を送る	（菅公四十四歳）
			これにより宇多天皇に挙用され政治の刷新を図ると共に平安京文化の礎を築く	
寛平	四年	八九二	従四位下『三代実録』『類聚国史』の編纂に着手	
寛平	五年	八九三	参議・式部大輔・左大弁を経て勘解由使長官	
寛平	六年	八九四	遣唐大使に任ぜらる	（菅公五十歳）
寛平	七年	八九五	渤海客使を接待し詩を交換　中納言従三位	
寛平	九年	八九七	正三位に叙し中宮大夫を兼ねる	
昌泰	二年	八九九	菅公右大臣に任ず　位人臣を極める	（菅公五十五歳）
延喜	元年	九〇〇	『菅家文草』『菅家後集』『菅家集』を献上す（三善清行、菅公に辞職を勧告）	
延喜	三年	九〇三	一月二十五日大宰権帥に左遷される　大宰府南館で謫居の日々（菅公五十七歳）	
			詩集『菅家後集』を京の紀長谷雄に送る　天拝山で「天満大自在天神」となる	
			二月二十五日　配所において薨ず	（菅公五十九歳）
延喜	五年	九〇五	味酒安行　大宰府に祠堂を建てる（現在の太宰府天満宮）	
延喜	六年	九〇六	門弟許され、京の都西ノ京にて菅公神霊を祀り始める	
延長	元年	九二三	菅公を元の右大臣・正二位に叙し、左遷の宣命を破棄す	
天慶	五年	九四二	多治比文子、比良宮神官の子太郎丸らに神託（朝日寺の僧 最鎮）	
天暦	元年	九四七	村上天皇により平安京の天門北野に鎮座す	
			村上天皇御鳳輦御寄進	
天暦	三年	九四九	村上天皇勅命により難波宮の地に菅公神霊を祀る（現在の大阪天満宮）	
天徳	三年	九五九	右大臣藤原師輔、北野の神殿を増築し神宝を献ずる	
寛和	二年	九八六	慶滋保胤「文道之祖詩境之主」の願文を草す	
永延	元年	九八七	一條天皇より北野社官幣に預り「北野天満大自在天神」の神号を賜る	
			北野社は官幣社となり勅祭北野祭が斎行される（江戸末期迄）	
			一條天皇御鳳輦御寄進	
正暦	四年	九九三	左大臣・正一位、次いで太政大臣を追贈される	
寛弘	元年	一〇〇四	一條天皇初めて臣下を祀る北野社に行幸　以後歴代天皇の行幸に与る	
永保	元年	一〇八一	北野社が国家の大事を祈る二十二社に臣下で異例の加列	
康和	三年	一一〇一	大宰権帥大江匡房により大宰府・安楽寺にて神幸式大祭が斎行される	
建久	五年	一一九四	『北野天神縁起』建久本成る	
承久	元年	一二一九	『北野天神縁起』承久本成る	
応永	八年	一四〇一	北野経王堂成る	
応仁	元年	一四六七	室町幕府の崇敬で「北野祭」隆盛を極めるも応仁の乱より途絶える	
天正	十五年	一五八七	「北野大茶湯」を豊太閤・千利休居士ら催す	
慶長	八年	一六〇三	出雲阿国が北野境内で初めてややこ踊り（歌舞伎踊り）を公演（歌舞伎発祥）	
慶長	十二年	一六〇七	豊臣秀頼公、北野社社殿を造営する（慶長の大造営）	
			後西天皇御宸筆 勅額「天満宮」御寄進（三光門掲額）	
江戸年間		後期	北野をはじめ大宰府・大阪・湯島など主要な天満宮に「和魂漢才碑」建立	
元治	元年	一八六四	勅命により北野祭臨時祭再興	
慶応	四年	一八六八	神仏判然令（神仏分離）により、天台宗比叡山延暦寺のもと、	
			社務を統括していた曼殊院との凡そ千年間に亘る神仏習合が終わる	
明治	四年	一八七一	北野天満宮 臣下で異例の官幣中社となる	
			太宰府天満宮 国幣小社となる（のち官幣中社）	
明治	三十五年	一九〇二	菅公千年大萬燈祭を斎行する	
昭和	二十七年	一九五二	菅公千五十年大萬燈祭を斎行する	
平成	十四年	二〇〇二	菅公千百年大萬燈祭を斎行する	
令和	二年	二〇二〇	例祭（かつての北野祭）斎行に伴い、比叡山延暦寺と共に北野御霊会を再興	
令和	九年	二〇二七	菅公千百二十五年半萬燈祭を斎行予定	

今昔マップ



◆北野社創建（平安時代）至現在
◆現在の京都

□ 平安京全域
■ 平安宮 大内裏

注①　国都平安京大内裏で千百年間天皇の祭政が執行され、日本文化が育まれてきた。

注②　平安京・大極殿の天門に北野、鬼門に比叡山、宇多天皇創建の仁和寺などが精神的中心となって熟成の礎となった。

注③　八幡さま、稲荷さまを始め多くの神仏は国都平安京（元の国都平城京）の近畿より全国に伝播。

天満宮
［第三十号］
令和四年一月一日　編集・発行／北野天満宮　編集責任者／神原　孝至　〒六〇二―八三八六　京都市上京区馬喰町　電話〇七五―四六一―〇〇〇五（代表）
http://kitanotenmangu.or.jp/

紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、

『久方の月の桂も折るばかり
家の風をも吹かせてしがな』

の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であったと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い豊かな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。

梅の枝「思いのまま」

―元旦から授与―

◆頒布開始　令和四年元旦より
◆初穂料　一本一〇〇〇円
（但し、無くなり次第頒布終了）

千五十年大萬燈祭（昭和二十七年）の初天神で参拝者に授与していた経緯より、約六十年ぶりに授与を復活させた招福の梅の枝「思いのまま」。

「思いのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で御神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。

招福厄除けの社 北野天満宮の節分祭

◆節分特別授与品の頒布

〈初穂料〉

●福豆の授与（三種類）　各一袋　二〇〇円
●災難厄除箸の授与（数に限りあり）　八〇〇円
●災難除の御札守・銀幣の授与
　災難除の御札　一体　三五〇円
　災難除の御守　一体　三五〇円
　銀幣　一体　九〇〇円

御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。
境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

右記ＱＲコードを携帯電話やスマートフォンで読み込むと北野天満宮の最新情報にアクセスできます。上記の各ＳＮＳでもご案内しております。

●アクセス

名神高速道路南インター又は東インターより約30分
JR京都駅より市バス50・101系統
JR・地下鉄二条駅より市バス55系統
JR円町駅より203系統
地下鉄今出川駅より市バス51・102・203系統
京阪出町柳駅より市バス102・203系統
京阪三条駅より市バス10系統
阪急大宮駅より市バス55系統
阪急西院駅より市バス203系統
京福電車白梅町駅より徒歩5分
いずれも北野天満宮前下車すぐ

●参拝時間

■楼門の開閉時間
6時30分～17時
※もみじ苑ライトアップ期間や正月等は夜間も開門しています。各行事のお知らせ記事をご覧ください。
■社務所・授与所　受付時間　9時～16時30分
境内の拝観は自由です。

●ご祈祷

■受付時間　9時～16時30分
■受付場所　御本殿東側授与所

●駐車場

参拝専用です。
駐車は参拝時間内に限ります。
■開場時間　9時～17時
※毎月25日は、縁日のため駐車できませんので公共交通機関でお越しください。